Ⅱ　部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長　平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。」

“緩和ケア”は、以前は、『寿命が迫ってきた時』の『疼痛緩和』が主な役割でした。
しかし、現在の緩和ケアは、『診断された時からの全人的苦痛緩和』なのです。つまり、とにかく、『苦痛、つらさを、緩和する』のが“緩和ケア”と考えています。
『磐井病院　緩和医療科』では、終末期はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いを考えています。もちろん、“基本的緩和ケア”は、主治医の先生方によって行われておりますが、症状緩和に難渋する症例や、精神的な不安が強い患者さんについては、『緩和医療科』にも、ご相談いただければ、なにかお手伝いができるかもしれません。“患者さんのために”を主治医の先生を含めた、緩和ケアのチームで考えていきたいと思います。
人生の最終段階に、人はさまざまなつらさに直面すると思います。その時期をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのでしょう。『その人らしく』、を大切に、悩み、葛藤さえも、『その人らしさ』と考え、その苦しみに静かに寄り添えるよう、緩和ケア病棟・緩和ケアチームのスタッフ一同、日々、患者さんから学ばせていただきながら、診療に当たっております。
緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関・介護施設などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えたいと思います。地域と連携しながら、状況に応じて当科からの訪問診療も行っております。
（なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん(悪性腫瘍)」（と AIDS。磐井病院では実績はありません)の患者さんに限定されています。）

＜診療実績＞（2023 年度(令和 5 年度)　2023/4/1～2024/3/31）
●緩和医療科外来
令和 5 年度の外来受診患者数は、のべ 1083 名受診（1 日平均 4.4 名/平日 245 日）
※新患患者数 233 名（うち、他院からの紹介 57 名(24.4%)）
●緩和ケア病棟
令和 5 年度入院数　入院患者数 201 名、退院患者数 205 名、うち死亡退院患者数 153 名、1 日平均入院患者数 16.0 名
●緩和ケアチーム
令和 5 年度の新規依頼患者数　82 名

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合
主治医の先生が紹介を希望された場合や、患者さんが受診を希望された場合
→「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医（平野拓司）宛にお気軽にご相談ください。

医療関係者の皆様へ
緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」の指定を受けています。

呼吸器内科

呼吸器内科長　駒木　裕一

令和５年度も常勤医１名で外来、入院診療を行っております。

主として気道疾患(気管支喘息、COPD)、感染症(肺炎、胸膜炎、抗酸菌症など)、腫瘍(肺癌、胸膜中皮腫、胸腺癌など)の診療にあたっています。両磐地区で肺悪性腫瘍の診断、治療を行える施設が当院を含め限られており、症例が集中しています。

＜診療実績＞

・外来患者延数　　6,160 名
・入院患者延数　　5,582 名
・気管支鏡　　112 件
・胸腔ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ　　54 件
・胸腔穿刺　　44 件
・化学療法　　入院　69 件、外来　287 件

消化器内科

第１消化器内科長　横沢　聡

両磐医療圏域における急性期病院である当院において、当科は主に消化器領域急性期医療を担っており、腹部症状等で当院を救急受診された患者さん、各種がん検診で要精査となった患者さんに対する内視鏡検査等の二次精査目的に受診された患者さん、そして他施設や院内他科から精査加療目的に紹介となった患者さん等を中心に、消化器領域疾患の診断および内科的治療を積極的に行っております。

また当院は「がん診療連携拠点病院」を標榜しておりますが、その中で当科は消化器癌診療の礎である診断を行い、更に内視鏡治療を中心とした低侵襲治療や化学療法などの治療も積極的に行っており、早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や胆管癌や膵癌に対する内視鏡的逆行性胆管造影法（ERCP）による術前精査や閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆管ドレナージ、更に消化器癌に対する化学療法など、外科とともに当院の消化器癌診療における中心的役割を担っております。

さらに当科の特色として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診療にも積極的に取り組んでおり、大腸内視鏡検査や小腸カプセル内視鏡検査、小腸造影検査などの各種検査による炎症性腸疾患の精査・診断を行っております。治療においては、5-アミノサリチル酸製剤やステロイド製剤などの基本治療薬から抗 TNF-α 抗体製剤などの分子標的薬に至るまで、患者様の病態に応じて種種の治療薬を使い分けて治療を行っております。

また、胆膵領域では ERCP 関連手技による精査、治療に加えて超音波内視鏡観測装置及びコンベックス型超音波内視鏡、更に最新型の胆道鏡である SpyScope™ DSⅡを整備しており、膵腫瘍あるいは消化管粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診（EUS-FNA）、胆道癌手術例における胆道鏡下生検を用いた病変範囲診断や総胆管結石に対する電気水圧衝撃波胆管結石破砕術（EHL）などを行っております。

当院は日本内科学会認定研修施設、日本消化器病学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定研修医施設、日本消化管学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設であり、各種学会の研修プログラムに則りながら専攻医研修を行っており、後進の育成も積極的に行っております。

＜診療実績（令和５年１月～12 月）＞

入院患者延数　10,866 人

外来患者延数　14,220 人

おもな検査、治療件数

上部消化管内視鏡検査　2,244 件

下部消化管内視鏡検査　1,310 件

超音波内視鏡検査　115 件

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）　24 件

消化管ステント留置術　43 件

内視鏡的逆行性胆管造影法（ERCP）229 件
内視鏡的胃瘻造設術（PEG）23 件
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）（食道）　11 件
ESD（胃）74 件
ESD（大腸）　63 件
大腸ポリペクトミー　331 件
肝動脈化学塞栓術（TACE）　10 件
腹水濾過濃縮再静注法（CART）　41 件
外来化学療法　633 件
入院化学療法　34 件

循環器内科

第１循環器内科長　小野寺　洋幸

＜循環器救急診療＞

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療の必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては 24 時間対応できるよう努力しております。

＜高度診療＞

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

＜動脈硬化性疾患の予防＞

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

＜病診連携＞

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただくよう、連携を進めていきたいと考えております。

＜対象となる疾患＞

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症　など

＜施設認定＞

日本内科学会認定教育関連病院、　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

＜診療実績＞（令和５年度）

冠動脈造影	84 件
経皮的冠動脈インターベンション	80 件
経皮的腎動脈形成術	0 件
恒久的ペースメーカー移植・交換術	59 件
大動脈バルーン・パンピング	19 件
下大静脈フィルター留置術	0 件
心嚢ドレナージ	1 件
心エコー	1,641 件

頸動脈エコー	9 件
腎動脈エコー	6 件
ホルター心電図	528 件
トレッドミル負荷心電図	162 件
心臓核医学検査	18 件
冠動脈ＭＤＣＴ	51 件
睡眠時ポリグラフィー検査	19 件

小 児 科

第１小児科長　丸山　秀和

＜特徴＞

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、令和４年８月より一般外来は完全予約制に移行となりました。完全予約制への移行により患者に対して集中的に診療を行えるよう対応しております。今後も完全予約制の対応にて、患者一人一人に対してより集中的な診療を行っていくよう努めてまいります。紹介患者は対応いたしておりますので御相談下さい。

月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は６～７ヶ月・１歳児健診、午後は１ヶ月健診）を行っており、その他午後は慢性疾患外来の診療を中心に行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していけるように心がけていきたく存じます。

＜診療実績＞（令和５年度）

入院患者延数	3,293 件	外来患者延数	7,711 件
当年度入院	684 件	新 患 数	1,182 件

新生児科

新生児科長　天沼 史孝

＜特徴＞

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米、気仙沼)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年４月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

コロナ禍となり 34 週からの新生児入院対応に変更しています。

より良い医療、安心、安全を提供するため週１回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

＜対象となる疾患＞

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

＜施設認定＞

日本小児科学会専門医研修関連施設
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
岩手県地域周産期母子医療センター

＜蘇生法講習会＞

毎年、１回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)と日々の蘇生の技術維持・向上のためスキルアップコースを開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ毎年たくさんのコース保持者を生み出しており、県内研修医や救命救急士、消防士の方にも参加して頂いています。

＜診療実績＞（令和５年度）

入院　1,053 人

超低出生体重児　10 人	極低出生体重児　12 人	低出生体重児　105 人
新生児黄疸　26 人	感染症　114 人	低血糖症　0 人
先天性心疾患　5 人	染色体異常　0 人	その他　781 人

外来 806 人（新患 37 人）

シナジス接種適応患児	67 人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	5,466 人

＜スタッフ紹介＞

医師名	専門分野	主な資格
天沼　史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医　認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会　新生児蘇生法　NCPR インストラクター
		日本ＤＭＡＴ隊員　災害時小児周産期リエゾン
		ＩＣＤ制度協議会ＩＣＤ(感染コントロールドクター)
		厚生労働省　臨床研修指導医

外　科

副院長　　桂　一憲

当科は、「がん連携拠点病院」を標榜している磐井病院にあって、消化器系、乳腺甲状腺の悪性疾患の診療を行っております。最新の癌治療ガイドラインに則った手術治療、化学療法(免疫療法を含む)、放射線治療など、「がん」の集学的治療を担っております。消化器疾患については、消化器内科と協力し、最適な医療の提供に努めております。

内視鏡外科手術などの低侵襲手術にも積極的に対応しております。

鼠径ヘルニアや胆嚢結石症などの良性疾患、急性虫垂炎や胆のう炎、腸閉塞などの緊急手術が必要な疾患についても、麻酔科と協力し、救急対応を行っております。

① 胃癌、大腸癌、食道癌、肝腫瘍、肺腫瘍、ヘルニアなどの鏡視下低侵襲手術が可能なスタッフが揃い、より高度低侵襲な手術の提供を目指しております。
② 乳癌は、月 3 回、東北大学総合外科乳腺内分泌外科、石田孝宣教授他 2 名の診察が行われ、最新の知見による乳癌治療を行っております。
③ 東北大学腫瘍内科、石岡千加史教授、東北医科薬科大腫瘍内科、下平秀樹教授が月各 1 回の腫瘍内科外来診察があり、最新の知見に基づいた化学療法を指示いただいております。また、難治性の腫瘍については、東北大学などの高次医療機関の治験にも参加しております。
④ 化学療法に経験のある医師を揃え、最新の免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬についても多数の患者への使用経験があります。
⑤ 胆沢病院血管外科チームと協力し、急性の血管病変にも対応しております。

外科

＜診療実績＞：2023年手術件数（2023年1月-2023年12月）　()は内視鏡手術

総手術件数		702 件	緊急手術		135件
成人ヘルニア【15歳以上】		83（19）件	結腸癌		64（45）件
小児ヘルニア		9件	直腸癌		39（33）件
内分泌	甲状腺悪性腫瘍	2件	肝臓悪性腫瘍		16（2）件
	甲状腺良性腫瘍	6件	膵臓	膵頭十二指腸切除	14件
乳腺	乳癌（温存）	11件		その他の膵切除	1件
	乳癌（全摘）	25件	胆道	胆嚢摘出	87（83）件
呼吸器	自然気胸	1（1）件		悪性腫瘍	1件
食道癌		2（2）件	虫垂切除		51（51）件
胃腫瘍(癌)	全摘	6（3）件	腸閉塞		27件
	部分切除	24（16）件	汎発性腹膜炎		9件
	GIST･その他	4（4）件	外傷による開腹手術		0件

ⅰ)充分な、インフォームド・コンセントのもと、進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡手術適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を継続いたします。

ⅱ）高齢患者の手術にも低侵襲な治療を選択し、かつ、地域の医療機関、介護施設との連携を密にし、患者の意に沿う治療法、治療場所を提供いたします。

ⅲ)PFM（患者フローマネージメント）を多職種で進め、術前術後患者の早期回復を目指します。

整形外科

第１整形外科長　中村　聡

＜特徴＞

整形外科では、いわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は６名で、うち４名（昨年度は５名）が日本整形外科学会認定の専門医資格を持っています。外来は月・火・水・木の午前に行っています。完全予約制ですが、予約されていても急患対応や緊急手術などでお待たせすることがあります。金曜日を主な手術日としていますが、平日は毎日手術を行っているのが現状です。

交通事故、労災事故、転倒による外傷など、手術が必要になりそうな患者さんは基本的に全て受け入れており、良好な機能回復を目指して手術を行っています。手術は年間約 600 件行っていますが、両磐地区ほぼすべての整形外科手術と、胆江地区の脊椎手術も行うため、手術件数が年々急速に増え続けており、今年度は過去最高の 883 件の手術を行いました。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨転子部/頸部骨折です。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努めています。また、この骨折ではリハビリを含めて一般的に２ヶ月前後の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

2020 年度からは脊椎外科医が着任し、脊椎疾患（頚部脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア等）の手術治療も行っています。2 椎間までの頚椎、腰椎疾患に対しては脊椎内視鏡による低侵襲手術を行っています。

2022 年から関節外科専門医が着任し、県内外から多くの患者が来るようになり、人工関節手術、関節鏡手術の件数が増えています。股関節手術（人工股関節置換、人工骨頭挿入）は術後脱臼のリスクが少ない仰臥位前方アプローチで行っています。

2020 年 12 月に、腰椎、大腿骨 DEXA による骨密度測定装置を新規導入しました。骨粗鬆症の診断、治療、骨折後の２次骨折予防のための治療強化などにも力を入れて取り組んでいます。

入院病床が限られるため、日常生活が不自由な状態での通院治療や、早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察の上、ご理解とご協力をお願い致します。

＜手術実績　883 件（令和５年度）＞

骨折観血的手術	268 件
人工骨頭置換術	54 件
人工関節置換術	145 件（うち股関節 70 件　膝関節 75 件　うち両膝同時 14 例）
関節鏡手術	37 件
脊椎手術	132 件（うち脊椎内視鏡手術 65 件）
その他（抜釘　手根管開放術　腱鞘切開　アキレス腱縫合など）	247 件

脳神経外科

脳神経外科長　藤原　和則

＜特徴＞

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

＜対象となる疾患＞

脳卒中のうちくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷などの頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫が入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査を行い、神経膠腫などの大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。

また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：１ヶ月に１回）。

＜設備＞

診断機器：ＭＲＩ、ＣＴ、ＤＳＡ、ガンマカメラ、脳波計

手術機器：手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、定位脳手術装置

＜手術件数＞（令和５年度）

脳腫瘍摘出術	0 件
脳動脈瘤クリッピング術	7 件
脳内血腫開頭摘出術	4 件
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	56 件
水頭症手術	2 件
外傷性頭蓋内出血（開頭）	2 件
その他	10 件

＜施設認定＞

日本専門医機構研修プログラムによる研修施設（関連施設）

＜スタッフ紹介＞

医師名	役　職	資 格 等
藤原 和則	脳神経外科医長	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
高橋 昇	リハビリテーション科長	脳神経外科専門医
鮠名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

参与兼形成外科長　本庄 省五

＜特徴＞

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健常に、より美しくすることによってみなさまの生活の質〝Quality of Life〟の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県立病院では2番目に設置され、日本形成外科学会の研修認定施設に認定されています。

＜対象となる疾患＞

口唇裂口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、瘢痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

＜診療内容＞年間手術数は270例

★口唇裂・口蓋裂症は、周辺医療機関の認知度の上昇とともに患者数も増加傾向にあります。大学病院での約20年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後3ヶ月前後で口唇形成術、1.5歳前後に口蓋形成術、10歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近はご高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では目立つ傷跡が出来るだけ残らないように治療しています。骨折でも皮膚切開線ができるだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、1歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚・皮下組織腫瘍は良性 126 例、悪性 25 例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。
★褥瘡・難治性潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治癒理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

＜施設認定＞
　日本形成外科学会　教育関連施設（専門医取得可能）

皮 膚 科

皮膚科医長　加藤　毬乃

＜診療科の特徴＞

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のてっぺんから，足のつま先までの皮膚病変を扱います。

＜対象となる皮膚疾患＞

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、帯状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、薬疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。表皮のう腫の切除手術や巻き爪の治療も行っております。

＜診療実績＞（令和５年度）

有棘細胞癌	８件
悪性黒色腫	10 件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget 病など）	16 件
１日平均外来患者数	25.９人
１日平均入院患者数	0.４人

泌尿器科

泌尿器科長　藤島 洋介

＜特徴＞

当科では、腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器に生じた癌や、尿路結石症、前立腺肥大症、陰嚢疾患、尿路感染症、小児泌尿器科疾患、末期腎不全に対する血液透析を行っています。開腹手術や腹腔鏡下手術、経尿道的手術に対応しており、特に前立腺肥大症に対するホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）・経尿道的水蒸気治療（WAVE）・経尿道的前立腺尿道吊り上げ術（PUL）、尿路結石に対するレーザー治療に力を注いでいます。PUL については東北６県で最も早く技術認定を取得した経験豊富な術者が在籍しており、岩手県内では唯一、複数の低侵襲治療（MIST: Minimally invasive surgical therapy）にも対応した診療体制を取っています。2018 年より MOSES system™を実装したホルミウムレーザーLumenis パルス 120H により、高効率な結石治療や MOSES HoLEP など先進的な治療を行っています。また、当院は前立腺癌に対する強度変調放射線療法(IMRT)前に治療精度向上や放射線性合併症の予防のため、前立腺金マーカー留置術や放射線治療用吸収性組織スペーサー留置術を当科にて行っており、近隣の医療機関からご希望の患者様の受け入れも積極的に行っています。

＜対象となる疾患＞

前立腺肥大症、尿路結石症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、尿路感染症、停留精巣、腎不全、シャント機能不全など。

＜診療内容＞

１　前立腺肥大症

高齢男性の排尿困難の多くは前立腺肥大症によるものです。前立腺超音波検査、排尿機能検査、前立腺癌のスクリーニング検査、内視鏡検査などで病状を正確に把握した後に、症状に応じて内服治療や手術療法をご提案させていただきます。前立腺体積や病状に応じてホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）・経尿道的水蒸気治療（WAVE）・経尿道的前立腺尿道吊上げ術（PUL）を選択できます。

HoLEP は従来の前立腺切除術と比較して出血が少なく体への負担が少ない上に治療効果が高く再発率が低く国内で徐々に普及しつつあります。当院は MOSES system による高効率手術（MoLEP）により従来まで開腹手術が行われてきた前立腺体積の大きい方にも対応しており、安全に手術可能となっています。2023 年からは、Rezum システムによる経尿道的水蒸気治療：Water Vapor Energy Therapy（WAVE Therapy）は前立腺中葉肥大を伴う 80cm^{3}以下の体積の方で、全身麻酔リスクのある方の低侵襲治療選択肢としています。UroLift2 システムによる経尿道的前立腺吊り上げ術：Prostatic Urethral lift（PUL）は、前立腺中葉肥大を伴わない比較的体積の小さめの方で、全身麻酔リスクのある方の低侵襲治療選択肢としています。

２　腎癌／腎盂尿管癌

岩手県立病院では数少ない日本泌尿器科内視鏡･ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医が在籍

し、主に腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡手術は体への負担が少なく術後の回復も早く、中程度までの病期の方に対する標準的な術式として普及しています。当院では2020年から3D内視鏡を使用した腹腔鏡手術を開始し、精度が高く合併症の少ない安全な手術を行っています。

3　尿路上皮癌（膀胱癌、腎盂癌、尿管癌）

膀胱癌は癌進行の程度によって治療方針が大きく変わります。早期癌は簡便な内視鏡手術のみで治すことができますが、癌が進行して大きくなってくると抗癌剤、放射線治療、開腹手術、苦痛緩和療法などのさまざまな方法を組み合わせる必要があり、治療期間も長くなります。磐井病院泌尿器科では、「最小の負担で最大の治療効果」をあげられるよう、さまざまな手術・治療法を駆使して治療に臨んでいます。膀胱癌に対する、第3世代光線力学診断用剤5-アミノレブリン酸(5-aminolevulinic acid: 5-ALA）を用いた光線力学診断(photodynamic diagnosis: PDD)が、2017年に保険適用になり、当院でも2020年から標準的にPDDを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を行い、精度の高い手術治療を行っています。

抗癌剤治療についても、保険適応となっている新規薬剤やレジメンを積極的に採用しています。大学病院などの高次医療機関と連携し、必要時応じて患者さんの地元での治療継続も可能としております。

4　前立腺癌

当科では早期診断と早期癌に対する低侵襲な放射線治療に力を入れています。精度の高い早期診断のために、当院ではプロステートヘルスインデックス(phi)による評価を採用しており、前立腺針生検が必要な方を絞り込んで行っています。強度変調放射線療法(IMRT)の適応となった場合には、治療精度向上や放射線性合併症の予防のため、前立腺金マーカー留置術と放射線治療用吸収性組織スペーサー留置術を行っています。ロボット支援腹腔鏡下手術や粒子線治療が適応となる患者さんについては、必要に応じて近隣または県内外の各病院などをご紹介しています。そのほか新規ホルモン治療薬や抗癌剤治療にも対応しており、大学病院などの高次医療機関と連携し、必要時応じて患者さんの地元での治療継続も可能としております。当院では病状に応じて、前立腺癌の遺伝子検査であるBRCA1遺伝子･BRCA2遺伝子検査（BRACAnalysis診断システム）を行っており、変異があった場合の治療まで行っています。院内で開設している遺伝カウンセリング外来にて、ご家族のご相談にも対応しています。

5　尿路結石症（腎結石、尿管結石、膀胱結石）

2018年よりMOSES system™を実装したホルミウムレーザーLumenisパルス120Hを用いた経尿道的内視鏡手術を導入し、TULやPNLなどの標準的な内視鏡手術に加え、高難度のECIRS/TAP手術も行っています。

6　腎不全

2020 年から末期腎不全患者さんの血液透析導入・管理、経皮的内シャント拡張術を行っています。血液浄化療法として免疫吸着療法、血漿交換療法にも対応しています。

＜施設認定＞

日本泌尿器科学会専門医教育施設

＜診療実績＞（令和５年度）

膀胱癌	尿路内視鏡手術	33 件	尿路結石症	TUL/TUVL	35 件
	開腹手術	1 件		開腹手術	1 件
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	2 件		ECIRS/TAP	3 件
	開腹手術	1 件	陰嚢手術	精巣固定術	2 件
前立腺癌	開腹手術	1 件		陰嚢水腫	7 件
	金マーカー	34 件	包茎	包茎手術	3 件
	スペーサー	34 件	腎不全	内シャント設置術	15 件
	前立腺生検	90 件	その他	膀胱部分切除術	2 件
前立腺肥大	HoLEP	19 件		尿路変向術	15 件
	PUL	20 件		膀胱鏡検査	694 件
	WAVE	15 件		尿管ステント	115 件
間質性膀胱炎	膀胱水圧拡張	3 件		その他手術	42 件

＜研究実績＞

１， 経尿道的前立腺尿道吊上げ術（PUL）の**日本人初症例報告論文**が採択されました。

Fujishima Y et al., Two cases of pelvic hematoma after prostatic urethral lift surgery. IJU Case Rep. 2023 Oct 28;7(1):26-29, doi: 10.1002/iju5.12659. eCollection 2024 Jan

2, **日本人対象で初**の経尿道的前立腺尿道吊上げ術（PUL）手術成績報告論文が採択されました。（共著者）

Anan G, Kaga K, Fujishima Y, Minami H, et al. Initial outcomes and surgical techniques of prostatic urethral lift for benign prostatic hyperplasia in Japan. Int J Urol. 2024 Jul;31(7):755-762. Doi: 10.1111/iju.15461. Epub 2024 Apr

3, 2024 年日本泌尿器科学会総会 Best Poster Award（共同演者）

産婦人科

第１産婦人科長　加賀　敬子

＜特徴＞

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、腟）、および関連した内分泌器官（視床下部、下垂体）を扱う診療科です。

現在、所属医師は産婦人科専門医５名、産婦人科専攻医１名の６名体制となっています。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず､岩手県奥州地方から宮城県北等にわたる総人口約 30 万人の医療圏を有しております。

産科分野においては、平成 23 年４月からは岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始し､新生児科の協力のもとに早産を含めたハイリスク分娩に対応しています｡また､妊娠・分娩・産褥期間の安心、安全を提供するために週１回の産婦人科、新生児科、および病棟スタッフとのカンファレンスを開催し､周産期チームとしての意思統一を図っています｡令和元年８月には､これまでスタッフが一丸となって取り組んできた母乳育児推進活動が評価され､WHO(世界保健機構)とユニセフによる「BFH:baby friendly hospital（赤ちゃんにやさしい病院）」に認定されております。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です｡良性腫瘍の治療においては、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医を軸として全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）、子宮筋腫核出術､子宮付属器腫瘍摘出術等を多数行っており､最近では近年増加している骨盤臓器脱に対する仙骨腟固定術（LSC）も開始しております。悪性腫瘍に対しては、地域より多数の紹介があり、がん治療専門医/日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医が在籍し、岩手医科大学、東北大学、宮城県立がんセンター等の高次医療機関、及び院内の放射線診断科・治療科、外科、内科、泌尿器科、緩和医療科等の各科と連携し、治療にあたっております。

＜対象となる疾患＞

産　科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般及びおおむね妊娠 33 週以降の分娩

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療

＜施設認定＞

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会専門医制度母体・胎児認定補完施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

BFH（赤ちゃんにやさしい病院）

＜診療実績＞（2023 年 1 月～2023 年 12 月）

手術件数：婦人科手術件数 250 件（開腹手術 51 件、腹腔鏡下手術 142 件、経腟手術等 59 件）

分娩：539 名出生（うち帝王切開分娩 174 名、双胎 6 名）

放射線治療科

放射線治療科長　阿部 恵子

＜特　徴＞

放射線治療科は、2015 年 7 月より常勤体制となり 9 年目を迎えようとしています。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただいております。直線加速器（リニアック）による X 線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム注射液も投与可能です。

対象となる疾患は 9 割以上が悪性腫瘍であり、治癒を目的とした根治照射、癌による疼痛や出血などの苦痛症状軽減のための緩和照射、乳癌の術後照射などをおこなっています。良性疾患も照射適応となることがあり、甲状腺眼症、ケロイドの術後照射などがその対象です。

2022 年 3 月にはリニアックの更新をおこない、強度変調放射線治療をはじめとする、これまで以上に高精度な治療を地域の患者さんに提供することが可能となりました。放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

＜スタッフ紹介＞

1　医師名（職名）等

阿部　恵子　放射線治療科長　平成 17 年度東北大学卒

2　専門分野

X 線、電子線による体外照射

3　主な資格等

日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会　放射線治療専門医

＜診療実績＞放射線治療患者数(2023 年 1 月～2023 年 12 月)

目的別

根治	79 件
緩和	69 件
術後	37 件
その他	4 件
合計	189 件

疾患別

乳癌	41 件	頭頚部癌	12 件
前立腺癌	41 件	リンパ腫	7 件
肺癌	21 件	結腸・直腸癌	14 件
食道癌	9 件	腎・膀胱癌	10 件
膵癌	6 件	婦人科癌	5 件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長　照山 和秀

＜特　徴＞

画像診断科では、ＣＴ・ＭＲＩ・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を１名の診断専門医（常勤）が担当しています。

＜スタッフ紹介＞

１　医師名（職名）等

照山 和秀　画像診断科長兼放射線科長　平成６年度東北大卒

２　専門分野

(1) カテーテルを用いた血管内治療。(外傷や消化管出血、不正出血などに対する動脈塞栓術、透析シャント狭窄に対する血管拡張術など)

(2) 画像ガイド下での生検やドレナージ。

(3) ＣＴ・ＭＲＩ・核医学などの画像診断。

３　主な資格等

日本医学放射線学会専門医

＜2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日までの読影件数＞

ＣＴ	3894 件
ＭＲＩ	1276 件
シンチ	207 件
アンギオ	22 件
一般撮影	0 件
計	5529 件

眼　　科

眼科長　今泉　利康

＜特徴＞

眼科は視覚を担う感覚器を扱う専門領域です。眼瞼・眼窩・眼球・外眼筋・視神経と分野も多岐にわたります。健康で自立した生活を送るためには視覚情報は不可欠なものであり、高齢化が進行する現代社会においては、その役割はますます重要になっております。今後も地域の皆様の視力の向上に貢献できるように、視能訓練士、看護師とともに励んで参ります。

＜対象疾患＞

白内障　緑内障　網膜疾患　屈折異常　ドライアイ　他

＜診療内容＞

視力検査　前眼部検査　眼底検査　眼圧検査

レーザー治療　白内障手術　硝子体注射

＜診療実績＞

白内障手術　128 件　後発白内障手術　90 件　網膜光凝固術　31 件

硝子体注射　311 件

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科長　吉田　拓矢

〈診療科の特徴〉

当科は平成 30 年 4 月から耳鼻咽喉科医 2 人での常勤体制となり、令和 3 年 7 月からは 3 人体制で診療をおこなっております。良性疾患については、耳・鼻・咽喉頭手術と幅広く行っております。また悪性疾患に関しては、岩手医科大学、東北大学と連携し診療にあたっており、緊急手術が必要となる頸部膿瘍などの対応もしております。

〈対象となる疾患〉

耳：難聴、耳鳴、耳性めまい、中耳炎など
鼻：アレルギー性鼻炎（後鼻神経切断術も行っています）、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害など
口腔、咽喉頭：扁桃炎、嗄声、味覚障害、口内炎など
頭頸部腫瘍：口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、唾液腺、頸部の良性・悪性腫瘍
その他：顔面神経麻痺、唾石症、嚥下障害、睡眠時無呼吸（手術加療も行っています）など

〈診療実績〉

内視鏡下鼻副鼻腔手術	79 件	唾石摘出術	4 件
鼻中隔矯正術	28 件	顎下腺摘出術	2 件
鼻甲介切除術	70 件	耳下腺腫瘍摘出術	5 件
鼻茸摘出術	6 件	リンパ節摘出術	3 件
涙嚢鼻腔吻合術	4 件	鼻腔粘膜焼灼術	50 件
鼻骨骨折整復固定術	6 件	鼻内異物摘出術	4 件
口蓋扁桃摘出手術	74 件	扁桃周囲膿瘍切開術	22 件
アデノイド切除術	10 件	咽頭異物摘出術	12 件
先天性耳瘻管摘出術	4 件	外耳道異物除去術	5 件
鼓膜切開術	8 件	硬性内視鏡下食道異物摘出術	0 件
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	15 件	深頸部膿瘍切開術	7 件
喉頭直達鏡下喉頭微細手術	0 件	気管切開術	7 件
喉頭ファイバー検査	1003 件	穿刺吸引針細胞診	60 件
鼻腔ファイバー検査	1265 件	組織生検	111 件
嚥下内視鏡検査	41 件		

総合診療科

理事兼総合診療科長　加藤　博孝

2017 年 1 月より総合診療科の外来を開設しました。

【磐井病院総合診療科の概要】

当院は、2016 年 4 月から総合診療科の診療を開始しました。

2018 年 4 月より新専門医制度がスタートし、「総合診療専門医」の専門研修が開始されました。当院は岩手県南部総合診療医育成プログラムの基幹施設となっていました。

2022 年 4 月 1 日から、岩手県の総合診療プログラムは岩手医科大学救急総合診療科が中心となり、岩手県全体で運営することになりました。**当院は、岩手県統一プログラムの機関施設**となります。

「総合診療」は、「病院総合診療」、「家庭医療」、「救急医療」に分けられます。共通点は「臓器・疾患にとらわれずに全人的な医療を提供する」ことです。日本全国でみると病院の総合診療科では、3 つの比率がそれぞれ異なり、診療内容は施設ごとにまちまちです。

当院の総合診療科は「病院総合診療」の比重が大きいです。救急医療は、「救急科」が対応しており、「家庭医療」は行っておりません。

当院総合診療科は、複数の健康問題を持っている患者さん、原因不明の発熱や病態不明の患者さんについて院内の各診療科と協力して診療しています。

2020 年度より臨床初期研修において 1 か月間の「一般外来研修」が義務化されました。初期研修医の一般外来研修の一部を総合診療科で担当しています。臨床問題や診断が特定されていない初診患者の外来診療を研修医が、病歴を聴取→身体所見から、臨床推論を行い、計画立案に至るまでの過程を実地で訓練します。研修医が、患者さんならびにご家族への接遇やメディカルスタッフと協働し、親しまれる医師を育てるように行動しています。

原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者さんにつきましては、総合診療科医師に直接相談いただければ幸いです。

→総合診療科医師直通： 08032125193（平日 9:00-17:00，および緊急時）

磐井病院総合診療外来

予約方法	総合診療科医師直通：　08032125193（平日 9:00-16:00，および緊急時） 磐井病院予約センター：　0191-23-3453（平日 9:00-17:00）
外来	平日　9:00-16:00　予約制
対象疾患	● 原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者 ● 複数の健康問題をもった患者さんの診療 ● ニコチン依存症に対する禁煙外来 ● 外科疾患：甲状腺、乳腺、鼠径部ヘルニア、肛門疾患（内痔核の日帰り手術） ● 成人の予防接種 ● 外来がん薬物療法（緩和医療科と連携）
診療概要	院内の各診療科、医療相談室、地域連携室と連携 院外へのコンサルテーションもしながら患者さんの健康問題解決を図る
医師	加藤博孝（総合診療指導医，外科学専門医，感染コントロールドクター，岩手医科大学臨床教授）
入院対応	入院が必要な場合は、院内の診療科あるいは院外に依頼する

研修医外来

- 半日で、1から2名の患者さんを指導医とともに診察→指導医とともにmini-CEXで評価
- EPOC-2での評価
- 主治医意見書記載
- 苦痛のスクリーニング
- 新患は、Ubie問診システムを使用
- 救急外来で診察した患者さんの再診
- 感染症症例検討会での講師
- AST症例検討会の症例まとめ

総合診療科週間スケジュール（2023/4/1-2024/3/31）

	月	火	水	木	金	土	日
7:45							
8:30-9:00	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	救急科 ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	救急科 ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ		
9:00-12:30	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
12:30-13:30	休息	休息	休息	休息	休息		
13:30-15:00	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
15:00-16:00	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ		
16:15	AST症例検討会			感染症症例検討会			
17:15							

主な診療実績（令和年度）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
禁煙外来初診患者	20人	14人	10人
新患数	31人	35人	37人

脳神経内科

副院長兼第１脳神経内科長　川守田　厚

＜特徴＞

岩手県南、宮城県北の救急を受け入れている総合病院で脳神経内科の常勤医がいるのは当院だけである。そのため当科の入院患者の大部分は脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者で占められている。特に脳梗塞に関してはｔPA 治療を行っているので他院からの診療依頼は多い。自己免疫性神経疾患、脱髄性疾患などの専門的な疾患に関しては、免疫グロブリン大量療法、免疫吸着療法などの特殊な治療を行っている。

外来はパーキンソン病、てんかんなど専門知識を必要とする慢性疾患の患者が多く、他院に診療依頼をすることが困難なことが多い。また、脳血管障害、パーキンソン病、神経免疫疾患、頭痛の専門医が週１回の割合で外来を担当している。また、脳血流 SPECT や MRI 稼動しているため認知症の診断、治療の依頼が多く、院内でも脳神経内科の医師が認知症サポートチームの一員として活動している。

＜対象となる疾患＞

代表的な疾患

脳血管障害（脳血栓症、脳塞栓症、一過性脳虚血発作など）

認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症など）

脳変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）

脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）

頭痛、てんかん

脳炎、髄膜炎

眼瞼痙攣（がんけんけいれん）　　片側顔面痙攣（けいれん）

末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など）

筋疾患（筋炎、筋ジストロフィーなど）　　脊髄疾患

＜診療内容＞

外来受診には基本的に紹介状が必要となります。CT,MRI 等の検査は検査日を予約して受けていただきます。筋電図、神経伝導速度の検査は毎週火曜日に行っています。外来診療は岩手医大神経内科、北上済生会病院等より応援を頂きながら当院の脳神経内科医師の一人が外来担当医として診療を行っております。急患の対応等で予約時間内に診察が困難な状況になることがありますのでご理解をお願いします。

＜診療実績＞（令和５年度）

患者	入院（延べ）	5600	人	検査治療	t-PA	4	件
	退院	360	人		ボトックス	13	件
	外来	4261	人		MRI	1312	件
	新患	344	人		CT	973	件

救 急 科

救急科長　片山 貴晶

＜診療科紹介＞

救急科では中村紳副院長、および片山貴晶救急科長、前川慶之災害医療科長の３人の救急科専門医を指導医として、後期研修医、二年次研修医及び一年次研修医とともに、主に救急外来を受診された患者様の診療および入院管理を担当しています。日中、救急外来での患者対応はほとんどすべて当科で担っております。入院患者には急性薬物中毒や外傷の患者様も多く、少ない人数で日々多忙を極めております。当地域の医療事情を鑑みて、薬物中毒や外傷、熱傷など専門的な診断・治療が必要な急性期疾患はもちろんのこと、不明熱や専門的治療が必要のない肺炎や尿路感染症などの急性疾患や心不全などの慢性疾患、当院に常勤医師不在の血液、腎・内分泌疾患など、また社会的に入院が必要な高齢の患者様の看取りの含めた入院管理など幅広く担当しております。

＜診療実績＞（令和５年度）

入院患者数：542 人
入院患者死亡数：69 人
救急車･ドクターヘリによる患者収容件数：3,213 件
救急外来での心肺停止症例の治療実績：94 人

＜学会認定施設＞

日本ＤＭＡＴ指定施設

歯科口腔外科

歯科口腔外科長　中山　温史

＜特徴＞

当科は岩手県南地域の中核病院として、大学病院や関連病院、また地域の歯科医師会等と連携しながら各種疾患に対応しております。

外来診療や全身麻酔下での手術のほか、歯科治療恐怖症の患者さんに対しましては、麻酔科と連携しながら静脈内鎮静法を積極的に取り入れ、治療に対する不安軽減に努めております。また有病者（他科で治療を受けられている方）に対しましても専門知識や治療経験を活かして対応しておりますので、安心して治療を受けていただくことができます。

さらに、発達障害を有する方に対しては、麻酔科と連携し、全身麻酔による手術や歯科治療に対応しております。

周術期口腔機能管理として、がん等に係わる手術または放射線治療、化学療法や緩和ケアを実施する患者さんに対しての口腔ケア等も行っております。また、栄養サポートチーム(NST)、呼吸ケアサポートチーム(RST)の一員として、他職種と連携を取りながら入院患者さんの口腔健康管理を支援しています。

☆当科は日本口腔外科学会より認定関連研修施設の施設認定を受けており、口腔外科認定医や専門医の取得を目指す若手口腔外科医の育成にも力を入れております。

＜対象となる疾患＞

埋伏歯等、顎顔面損傷、炎症性疾患、アレルギー疾患、感染症、口腔粘膜疾患、のう胞および類似疾患、腫瘍および類似疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経系疾患、歯科治療恐怖症など

歯科口腔外科診療実績（令和５年度）

外来患者数	4,148 名
入院患者数	107 名
全身麻酔症例	102 件
静脈内鎮静症例	15 件

麻 酔 科

中央手術科長　須田　志優
麻酔科長　叶城　倫子
麻酔科医長　菊池　俊慧
（歯科医師）　玉野井　喬

＜診療科紹介＞

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

令和５年１月から 12 月までの１年間に、自施設の研修医７名と県立大船渡病院の研修医１名による麻酔研修、奥羽大学歯学部から歯科医師１名の医科麻酔科研修を受け入れました。今後も岩手県立中央病院・岩手医大・東北大の基幹研修施設・関連研修施設として専攻医・研修医・歯科麻酔科医の育成等に励みたいと考えております。

上記と併せて、救急救命士等の研修を行い、令和５年は一関市消防本部に所属する救急救命士に対して気管挿管実習（2 名）及び再教育実習（9 名）、久慈広域消防本部に所属する救急救命士に対して AWS 挿管実習（1 名）を受け入れました。

＜診療実績＞（2023 年 1 月～2023 年 12 月）

麻酔法	症例数
全身麻酔（吸入）	529 例
全身麻酔（TIVA）	982 例
全身麻酔（吸入）+硬・脊・伝麻	218 例
全身麻酔（TIVA）+硬・脊・伝麻	132 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	38 例
硬膜外麻酔	0 例
脊髄くも膜下麻酔	39 例
伝達麻酔	1 例
その他	22 例
合　計	1968 例

＜学会認定施設＞

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院

日本歯科麻酔学会認定研修機関

看護科総括

総看護師長　中村　利江

1　看護科概要

1）**看護科理念**　「その人らしさを大切にした　優しさと信頼のある看護の提供」

2）**入院基本料**：一般病棟：急性期一般入院料１、　５病棟：緩和ケア病棟入院料２
看護単位および病床数：８看護単位　315 床（結核病床　10 床）

3）**看護提供方式**：パートナーシップ・ナーシング・システム

4）**認定看護師、資格等**
専門看護師：がん専門看護師１名
認定看護師 11 名：乳がん看護、がん化学療法看護、がん性疼痛、緩和ケア、感染管理、新生児集中ケア、手術看護、皮膚・排泄ケア、クリティカルケア、認知症看護、透析看護
特定行為研修修了 5 名：呼吸器関連（人工呼吸器）、循環動態に係る薬剤投与関連、創傷管理関連、ろう孔管理関連、栄養及び水分に係る薬剤投与関連、精神・神経症状に係る薬剤投与関連など

5）**各種専門分野からの認定**：アドバンス助産師 11 名、日本 DMAT9 名、リンパ浮腫療法士１名、日本消化器内視鏡技師 6 名、呼吸療法認定士 4 名、日本糖尿病療養指導士１名など

6）**看護研究院外発表**：11 題

7）**看護師等学生の受け入れ**：7 校　県立一関高等看護学院、一関医師会附属准看護高等専修学校・看護専門学校、岩手県立大学看護学部助産学科、岩手県立大学大学院看護学研究科がん看護 CNS コース、岩手保健医療大学、岩手医科大学附属病院高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程、

8）**ふれあい体験･職場体験･サマーセミナー･インターンシップ**：ふれあい看護体験（中・高生）56 名、インターンシップ 3 名、職場体験１名

2　令和５年度活動とその成果

重点取り組み事項は、①倫理的視点を高め、患者にとって安全・安心で納得できる看護の提供につとめる　②看護職員の業務負担を軽減し、働き続けられる職場環境　とし、4 つの視点から事業計画を策定し活動した。

【顧客の視点】

（1）患者満足度調査結果は基本的な接し方において、不満・やや不満の回答が外来は前回より 0.5 ポイント増の 1.8%、病棟は 0.9 ポイント減の 1.9%となった。挨拶チェックや研修を定期的に行うとともに更なる対策を講じる必要あり。看護師による説明等について不満・やや不満は外来が 0.35 ポイント減の 0.95%、病棟は 0.15 ポイント増の 3.05%であった。看護師によって説明内容が異なることが無いよう説明パンフレットの見直しと活用を行っているが、話し方や理解度の確認なども強化する。
今年度外来コンシェルジュを導入し、主に外来のラウンドを行い積極的に患者・家族等に声を掛ける取り組みを開始した。外来での提言の減少につながったため、次年度も継続する。

（２） 患者誤認件数が昨年度よりも 7 件増加し、18 件となった。基本的な患者確認方法を徹底することで防げた内容が多かったため、職員全員がマニュアルを遵守するよう取り組む。

（３） 身体拘束解除に向けた取り組みでは、ボランティアの協力を得て作成した認知症マフや泣き笑い人形を取り入れることでの効果があった。今後も多職種で協力し拘束解除に取り組む。

（４） 特定行為研修修了者の活動が 19 件（300 分）となった。新たな研修終了者が 4 名増えたため、院内周知を行い積極的に活用を進める。

【財務の視点】

（１） せん妄ハイリスク加算、排尿自立支援加算、術後疼痛管理チーム加算がそれぞれ増加した。次年度の診療報酬改定に向け、上位基準算定や新規加算取得に向けて取り組む。

（２） ４西病棟が一般病棟となり、一般入院患者が増加した。病床の有効活用を進める。

【内部プロセスの視点】

（１） 看護職員満足度調査において、「職場での自らの存在意義」の点数が、昨年度より 0.16 ポイント減少し、2.58 点だった。職員個々の目標が達成できるよう承認メッセージを伝え、やりがい感を高めていけるよう支援する。

（２） 看護記録の効率化については、重複記録縮減やタイムリー記録となるようにテンプレートの見直しやケア項目のセット化、PNS 体制強化を記録委員会や主任会が中心となって取り組んだ。ペアで連携し業務を行う基本行動の振り返りになったとともに、患者が満足するケアの提供を目指し課題も明確になった。

（３） 看護業務効率化の取り組みは「小さなことから業務改善」として各部署で活動をすすめ、申し送り方法や日課表の見直し、連絡窓口の 1 本化等 72 項目の業務改善を行った。今後も看護業務の効率化を図り、働きやすく・働き続けられる職場環境整備に努める。

【学習と成長の視点】

（１） 教育プログラムに基づき、新人教育、各レベル研修を実施。上位レベルに到達したスタッフは 31 人であった。研修環境を整える取り組みとして、勤務時間内に e-ラーニング視聴や研修まとめの時間確保をすすめると共に、集中して学習ができるようタブレットの貸し出し等を行った。

（２） 認定看護師養成課程（B 課程）3 名終了、特定行為研修 1 名終了した。また、助産師内部養成で助産師養成校に 2 名合格した。

3　今後の課題

１）自律した看護職員の育成

２）やりがい感や達成感を感じられる看護提供の実践

３）心理的安全性が保たれた、働き続けられる職場環境づくり

４）キャリア支援と病院機能・役割に合わせた資格取得への支援

外 来

看護師長　菅原　洋子

1　概要

標榜診療科　：　21

スタッフ数　：　看護職員　60 名（看護補助者　9 名含）

看護体制　　：　２交代制

16 時間夜勤：2 名、

12 時間当直：平日１名

４B：土・日曜日・祝日１名

2　令和５年度実績

(1)　一日平均外来患者数：　484　名

(2) 救急受診患者数

救急外来患者総数	11530 名
入院患者数	3126 名
救急外来からの入院率	27.2%
救急車受け入れ台数	3205 名
ドクターヘリ受入数	8 名
来院時心肺停止患者	94 名
トリアージ加算件数	2263 件

(3) 内視鏡検査数　全検査数：(3899) 件(消化管止血術：緊急呼び出し対応含む)

検査名	GIF	CF	消化管止血術	胃/食道 ESD49/1	大腸 ESD	胃 2、大腸ポリープ切除術 205	ERCP 含む　採石・ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ、ｽﾃﾝﾄ治療
件数	2322 件	362 件	83　件	65 件	61 件	312 件	139 件

(4)　外来化学療法室延患者数

年間利用者　延人数 2346 名

	外科	消化器内科	呼吸器内科	婦人科	泌尿器科	小児科	整形外科
利用者数（名）	1129	571	287	145	183	18	13

3　活動目標の取り組みと結果

≪外来看護目標≫

1，患者・家族の気持ちに寄り添い、丁寧な看護を提供する

2，看護職員一人ひとりが役割発揮できる職場環境作りに努める

【顧客の視点】

(1)　患者誤認防止についてポスター提示と患者確認チェックを実施した。患者誤認防止のため、JCS-3 以上の救急患者にはリストバンドを装着している。

(2)　クリティカル認定特定看護師の活動時間を日勤の朝 1 時間の時間確保を実施し、主に救急科の医師の回診に同行し、病棟の人工呼吸器を装着している患者を中心にラウンドを行い、必要時人工呼吸器の設定変更を実施した。また、RST による呼吸ケアラウンドや救急外来での脱水補正、カテコラミン投与量の調整等を実施するなど特定認定看護師の活用促進に努めた。

(3)　倫理的な看護の実践を目指し、部署・ペア毎の事例検討会を実施した。また、意思決定支援のポスター掲示や臨床倫理について e―ラーニングを活用し、理解を深めた。

【財務の視点】

(1) 各種算定件数は下表参照

算定項目	件数	算定項目	件数
ストーマ処置料	379	在宅自己導尿指導管理料	195
外来化学療法 1	129	外来迅速検体検査管理加算	103255
外来腫瘍科学療法診療料 1	3063	リンパマッサージ施術件数（保険適用外）	146
がん性疼痛緩和指導管理料	352	がん患者指導管理料イ	331
在宅療養指導料	545	がん患者指導管理料ロ	30

(2) 請求カードの紛失防止を注意喚起するポスターを作成し、また、救急外来で単価が高いものについて値段を表示することでコスト意識向上に努めた。

【内部プロセスの視点】

(1) 大腸カメラの説明 DVD の使用を開始し、使用件数は 18 件であった。また、SPD と協同しながら各診療科の診療材料のセット化を促し、業務効率化に努めた。

(2) 15 時～16 時に残務状況をコーディネーターへ報告し、超過勤務時間縮減に向けた補完体制の整備を実施した。

(3) 入院決定時の患者・家族の反応を記録し、継続した関わりができるよう看護記録の充実を図るために、隔月で記録監査を実施し、結果をスタッフへフィードバックすることで看護記録の記載率が上昇した。

【学習と成長の視点】

(1) DMAT2 名、フットケア 1 名、排尿自立ケア 1 名、災害支援ナース 1 名が資格を取得し、クリテイカルケア認定看護師 1 名が特定行為に係る研修を修了した。

(2) 看護研究活動として、日本エンドオブライフケア学会、日本腎臓リハビリテーション学会学術集会に 2 題発表した。

手術室・中央材料室

看護師長補佐　　阿部　優

1　概要

1）手術診療科

外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、歯科口腔外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、救急科

手術室数：7室

看護師数：20名(看護補助者1名含)

2）中央材料室：スタッフ6名(委託業者)

2　手術件数：2959件（R4　2685件）

麻酔科依頼手術：1901件（R4　1696件）

3　令和5年度活動目標の取り組み

手術室看護目標　「患者の個別性を大切にし、安心・安全な周手術期看護を提供します」

【顧客の視点】

1）　麻酔科管理症例は緊急症例を除くほぼ全症例に術前訪問を実施し、手術室の紹介や麻酔方法、手術体位、褥瘡予防対策等ケアの説明を行った。術後訪問も実施し行ったケアの振り返りと手術室への要望などを聞き取り、患者満足度の向上に繋がるように努めた。

2）　毎週金曜日を医療安全カンファレンス開催日とし全てのスタッフが参加できるように毎回ファシリテーター担当を決めて行った。砕石位手術での下肢術後コンパートメント症候群事例を受け、多職種を交えた事例検討会を実施した。診療科医師、麻酔科医師、CE、看護科、リハビリテーション科が参加し、専門的な職種からの助言や提案がなされ対策を講じて実践している。

【財務の視点】

1）　術後疼痛管理チームの活動は、術後疼痛管理チームのビブスを着用しメンバーが算定期間内に訪問し術後の状態を観察した。今後も疼痛管理による患者疼痛スコアの減弱、生活の質の向上及び合併症予防を目的とし疼痛管理チームの回診を継続していく。また、次年度は新たな疼痛管理チームメンバー育成のため研修参加を支援していく。(令和5年度術後疼痛管理チーム算定件数589件　R6年度看護師1名研修参加予定)

2）　執刀医の希望や最新の術式に対応するために、手術器械の見直しを定期的に行った。新規購入だけでなくコンテナセット組み換えなどコスト削減と効果的な器械運用に努めた。専門分野における新たな術式導入に応じて、特に整形外科コンテナすべての見直しを行い、スムーズな運用につなげた。

【内部プロセスの視点】

1）　新人看護師、転入者手術進行度チェック表を使用し、経験に応じた手術担当ペア、待機者の組み合わせに配慮し業務分担することで働きやすい職場環境作りに取り組んだ。

２）　ベッドで入室する手術患者に限定し、手術患者の送迎（退室時の搬送 75 件）を取り組むことで業務の効率化を図り、病棟スタッフの業務負担軽減につなげた。

３）　手術室７番が陰圧対応可能部屋であるため、COVID－19 手術専用部屋として運用した。関連部署とのシミュレーションを実施し随時マニュアルの修正を行い周知した。

４）　多様な勤務形態を導入しており、休日の待機は 24 時間待機と日勤待機の選択制とし、日勤待機時は病棟応援とした。院内にいるため、緊急手術時には迅速に対応可能、勤務者は平日の休日が確保され、応援による入院基本料の時間数増にも貢献した。手術件数の増加に伴い、手術室経験のある他部署職員による業務応援の協力を得て、安全に業務を遂行することができた。

【学習と成長の視点】

１）　災害派遣医療チーム DMAT　１名

２）　院内レベル研修：レベルⅡ　１名、レベルⅣ　１名

３）　災害支援ナース　１名

４）　名院外発表　２題

２ 病 棟

看護師長補佐　佐藤　由美

1.概要

診療科：外科、泌尿器科、歯科口腔外科、救急科、総合診療科

病床数：51 床　スタッフ数：看護師 29 名、看護補助者 5 名　夜勤体制４：３

2.入院患者総数：1,599 人、　1 日平均入院患者数：37.08 人

病床利用率：80.7%、　平均在院日数：8.2 日

3.病棟看護目標

１）多職種と連携・協働し、病棟の特殊性を活かした継続的な看護を提供する

２）スタッフの心理的安全性を確保し、働き続けられる職場環境づくりを行う

【顧客の視点】

（１）退院時アンケートの結果やご提言をスタッフ間で共有し、倫理カンファレンスを行うことで、スタッフの倫理観の醸成につなげています。

（２）術後患者の早期離床に向け、疼痛のコントロールを図りながら、リハビリテーション科と協働し取り組んでいます。

（３）退院支援においては、入院時から退院に向けて必要なケアや社会資源について、退院支援部門と共有しています。今年度は、受け持ち看護師を中心に、退院支援看護師と共に 6 件の退院後訪問を行ないました。主に人工肛門造設後の訪問となりますが、訪問看護師やケマネージャーと連携し、退院後のケアを見据えた支援や地域との連携に向け取り組んでいます。

（４）毎週、外科・泌尿器科ともに医師を交えた多職種カンファレンスを行い、患者さんの情報共有・目標設定を行っています。多職種が集まり、一緒に考えを深めることにより、より良い医療を提供できるようチーム医療に取り組んでいます。

【財務の視点】

（１）重症室利用率 58.6%、全身麻酔術後患者の他、状態観察が必要な患者に使用しています。また、入退院支援からの情報を活かして効果的な病床利用を図り、特別室利用率は 78.6%と高い値を維持しています。

（２）せん妄ハイリスク加算 994 件、排尿自立支援 48 件、がん性疼痛緩和指導料 15 件など、多職種と関わりながら、患者に必要なケアが提供できるよう取り組んでいます。

（３）定期的に SPD の不動在庫を見直し、110,278 円削減することができました。

【内部プロセスの視点】

（１）インシデント・アクシデント発生時は、早急にカンファレンスを行い、再発防止に努めると共に、０レベル報告を推奨し、医療事故予防に努めています。

（２）不必要な身体抑制を実施しないために、せん妄リスク状態を正しくアセスメントし、オレンジサポートの協力を得ながら対応しています。また、医師と共にドレーンやチューブ類の早期抜去など事故防止に努めています。

（３）定時退庁希望日を分担表に記入し可視化することで、PNS の補完などスタッフ間で協力し合える体勢作りに努めています。

【学習と成長の視点】

（１）院内レベル研修　レベルⅠ：３名　レベルⅡ：４名　レベルⅢ：３名　レベルⅣ：２名に対して、支援を行いました。

（２）ストーマサイトマーキング１名修了、セカンドレベル研修１名修了、感染看護認定看護師養成校入学決定１名、助産師養成校入学決定１名

３東病棟

看護師長　吉田　知子

１　概要

診療科：脳神経外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科

病床数：60 床、スタッフ数：看護師 31 名、看護補助者 5 名、夜勤体制：４：３

２　入院患者数等

入院患者総数：1698 人（延べ患者数　18296 人）１日平均入院患者数：　50.1　人

病床利用率：91.2%、平均在院日数：11 日

３　活動目標への取り組み

重点項目

① 患者にとって安心・安全で納得できる看護の提供

② 受け持ち看護師中心に入院早期から他職種と協働し、退院支援・調整を図る

【顧客の視点】

（１） 面会制限がある中 ZOOM を活用してリハビリの状況などを伝え退院支援を実施した。ZOOM で実際見ることで分かりやすいとの意見があり好評であった。

（２） 患者家族からの提言や事例を基に倫理カンファレンスを実施し病棟スタッフの倫理観の醸成に努めた。

【財務の視点】

（１）整形外科疾患中心に 14 回／年、部署で学習会を開催し、知識の習得に務めた。

（２）加算に関連したカンファレンスの開催、適切な看護記録推進のため監査の実施や情報共有に努めた。

排尿自立支援	110 件	せん妄ハイリスク加算	1152 件
介護連携指導料	65 件	入退院支援加算 1	1304 件
退院前訪問	1 件	退院後訪問	4 件

（３）看護学生の臨地実習を受入れ、PNS チームの一員として、充実した実習となるよう支援した。

（４）認知症のある患者に対して見当識ボードの積極的な使用と、手術後の鎮痛薬の積極的な使用を行い夜間せん妄予防に繋げられるよう取り組んだ。オレンジサポートチームと連携し精神科医師の診察、内服薬調整を行い認知症症状の緩和や早期離床、リハビリテーション推進を行った。

（５）身体拘束実施中の患者のカンファレンス実施し拘束解除へ向けての取り組みを実施した。身体拘束しないために具体的な看護ケアを掲示し部署で周知した。

【内部プロセスの視点】

（１）リアルタイム記録推進のため PNS ペアでラウンド時に電子カルテを必ず持参し HR ジョイントを使用し効率的な看護記録の推進に努めた。

（２）看護補助者の時差出勤（遅番）を導入し、清潔ケアや準夜勤食事介助など看護ケアの参加を推進した。

（３）業務改善を行ない、業務を可視化することにより、定時退庁に向けた風土作りにつなげた。

【学習と成長の視点】

（１）院内レベル研修　レベルⅠ：3 名、レベルⅡ：1 名　レベルⅢ2 名支援を行った。

（２）摂食嚥下認定看護師　認知症看護認定看護師　認定看護師養成課程派遣者 2 名

（３）日本看護評価学会学術集会発表　１名

３西病棟

看護師長補佐　岩脇　寿奈子

１．概要

診療科：産婦人科、小児科、新生児科、形成外科

病床数：60 床　夜勤体制：4:3　スタッフ数：看護職員 31 名　看護補助者 4 名

２．入院患者総数 2087 人（延数 15723 人）病床利用率 71.6％ 平均在院日数 6.3 日

一日平均患者数 43 名

年間分娩件数 531 件、帝王切開率 32％、2 週間健診（電話訪問含む)561 件

助産師外来 5 件

３．病棟目標

１）地域周産期母子医療センターとしての救急受け入れ体制の整備

２）小児救急の受け入れ体制の整備

３）他職種を交えて地域との連携を図り、患者とその家族への専門的な医療の提供

４）成長発達をふまえた、小児とその家族への専門的医療の提供

５）BFH（赤ちゃんにやさしい病院）施設として専門性を発揮し、母子への安心安全な看護の提供と育児支援

【顧客の視点】

（１）地域と連携した患者満足度の向上

①　退院時アンケート内容から問題点をあげ､定期的に他職種を含めた倫理カンファレンスを開催。カンファレンス内容を共有し、関わりを重視したケアを実践した。

②　地域母子保健連絡会議をオンラインで 3 市町村と開催し、地域との情報共有・連携に努めた。

（２）専門性の高い看護の提供

①　赤ちゃんにやさしい病院（BFH）認定施設として、授乳満足度調査や医師と共に母乳育児事例検討会を開催。ケア内容を共有・見直し、母子に寄り添った母乳育児支援を行っている。また、母親学級は病院 HP に掲載し、いつでも個人受講が可能になった他、オンライン開催し実技を混じえて顔が見える関係作りに努めている。

②　手術室スタッフ・麻酔科と協力し帝王切開時の早期母子接触を継続。グレードＡシミュレーションや COVID-19 対応分娩シミュレーションを開催し、母子の安全に向けた支援に努めている。

③　診療科を限定せず 15 歳未満の小児の入院受け入れを始め、担当診療科と連携し円滑な受け入れが出来るよう努めている。

④　形成外科では小児から高齢者まで各世代に対応した医療と看護の提供に努め、退院支援部門と連携し早期退院に努めた。

【財務の視点】

（１）小児環境加算定数 117 件、産科ハイリスク加算算定 447 件、褥瘡発生率 0％

（２）小児入院医療管理料 4 の取得に向けた取り組み（令和 6 年 2 月から）

（３）クリティカルパス推進　新規パス作成３件

【内部プロセスの視点】

（１）医療安全対策として声だし・指さしを推進し、５Ｒの周知徹底に努めた。インシデント共有と対策後の評価を実施し、再発防止に努めた。転倒転落発生率 0‰（レベル 3a 以上の転倒転落件数 0 件）

【学習と成長の視点】

（１）病院機能・役割に合わせた資格取得への支援

NCPR 取得者　24 名　、アドバンス助産師 10 名　、小児 AHA+PALS プロバイダーコース受講　2 名

（２）看護研究：第 31 回母乳育児シンポジウム　1 題

４東病棟

看護師長補佐　　山田　幸恵

１　概要　　診療科　　：　循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、救急科、皮膚科、放射線科、形成外科

病床数　　：　60 床（重症室 5 室を含む）

夜勤体制　：　準夜 4 名　深夜 3 名

看護職員数：　看護師 30 人、看護補助者 5 人

２　入院患者総数：　1577 人（延患者数　17931 人）、平均在院日数：9.75 日

３　活動目標の取り組み

病棟看護目標「患者さんやご家族に寄り添い、多職種と協働し専門性を発揮した看護を提供します。」

【顧客の視点】

（１）患者満足度の向上

退院時アンケートを共有し、ご提言に対しカンファレンスを行い改善に向けた取り組みを行っております。また ACP の勉強会を行い、倫理的問題について振り返り看護を提供しました。

（２）看護の専門性発揮

①NST、RST、オレンジサポートチーム、ICT ラウンド、緩和ケアチームカンファレンスへの参加。

②多職種参加の各科診療科カンファレンスの実施。

③ECMO 装着から離脱患者の回復過程の治療・処置や看護の提供。

（３）地域と連携

①脳卒中地域連携パスを運用し、患者・家族の意向を確認し、患者の療養環境を整えることができました。

【財務の視点】

（１）医業収益の確保

①診療報酬への取り組み：せん妄ハイリスク加算 922 件、退院前退院後訪問　2 件

②適正な病床管理：重床室 33.9％、個室利用率　78.4％

③脳卒中地域連携パス運用：63 件

（２）費用の削減

SPD の不動在庫の見直しを行い、請求ラベルの紛失がないように看護師、看護補助者、医師へ働きかけ適正な管理に取り組みました。

【内部プロセスの視点】

（1）インシデント分析とカンファレンス・改善策の共有を実施しました。また1ヶ月後に改善策について振り返りを行い取り組みの評価、再発防止に努めました。

（2）定時退庁希望日を分担表に印をつけ見える化し、PNSのグループで取り組むことで協力体制ができ意識付けができました。

（3）PNSペアで8時30分から病室へ行き患者の状態観察、情報収集を行い情報共有しています。また病室で記録を行いリアルタイム記録が行われています。

【学習と成長の視点】

（1）看護実践能力向上への取り組み

レベルⅠ：2名、レベルⅡ：3名、レベルⅢ：2名、レベルⅣ：1名

（2）各種資格取得

ファーストレベル：1名

セカンドレベル：1名

重症度、医療・看護必要度評価者指導者：3名

４西病棟

看護師長補佐　長根　由希子

１．　概要

※ コロナ感染症対応病棟

診療科 ： 各科、陽性患者は呼吸器科で対応（結核患者受け入れ中止）

病床数 ： 陽性患者 10 床　　一般病床　46 床（消化器内科）

夜勤体制 ： 準夜３名　深夜３名

看護職員数 ： 看護師 20 名　看護補助者３名

２．令和５年度入院患者総数（入院患者延数）：2051 名

１日平均入院患者数（入院患者延数から）5.6 名

病床利用率：11.2%　平均在院日数：3.3 日

３．病棟目標

１）新型コロナウイルス感染症の院内感染を防ぎ、患者家族に寄り添った看護提供の実践

４．活動目標の取り組み

【顧客の視点】

（１）患者満足度の向上

ケアカンファレンスの中から倫理カンファレンスに繋がる内容を取り上げ、倫理カンファレンスを実施。患者や家族の思いに寄り添う看護を提供することが出来た。

（２）看護の専門性の発揮

夜間せん妄のある患者に対し認知症認定看護師のアドバイスを受け、夜間の睡眠確保、リアリティーオリエンテーションを実施。また、ADL の低下が予測される患者に対しリハビリテーション科と協働し早期からのリハビリテーションを実施した。

身体拘束患者に対し、身体拘束解除に向けたカンファレンスを随時実施している。フローチャートに沿った抑制解除のタイミングや身体抑制しないための具体的看護ケアが理解できるように勉強会を実施。事例検討会を行い、振り返りを行っている。

（３）自施設の特性を活かした看護の専門性の発揮

社会情勢に伴い COVID-19 が５類へ移行。COVID-19 の動向に合わせてその都度マニュアルを変更し柔軟に対応することが出来た。また、看護補助者用のマニュアルを整備し、看護補助者の COVID-19 対応を開始した。

【財務の視点】

（１)せん妄ハイリスク加算

認知症看護認定看護師による DST 評価の勉強会を実施（6 月）し、整合性を高めた。また、記載が漏れないように入退院チェックリストを活用し、せん妄ハイリスク患者ケア加算:694 件、認知症ケア加算（身体抑制）：34 件を算定することができた。

（２）費用の効率的執行

患者数の増減に合わせ物品の見直しを随時行った。(総件数 55 件：物品定数減数 3 件、新たな物品定数化 12 件、定数増加数 37 件、削除件数 3 件)

【内部プロセスの視点】

（１）働きやすく、働きがいのある職場の環境

病床数拡大に伴い２交代制から３交代制へ変更した。

5 月より看護補助者導入、7 月より看護補助者の COVID-19 対応を開始し、業務の効率化を図ることが出来た。

（２）院内感染対策の推進

常に COVID-19 の動向に合わせた対応を行っている。COVID-19 陽性患者対応スタッフが正しい PPE 着脱が出来るように 1 回/月 PPE 着脱確認を実施し、院内感染防止に繋げた。

【学習と成長の視点】

いわて糖尿病療法指導士：１名

レベルⅠ：１名

レベルⅢ(看護過程)：３名

レベルⅢ（看護研究）：１名

レベルⅤ：１名

５病棟（緩和ケア）

副総看護師長兼看護師長　　小野寺　美智子

１　概要

診療科：緩和医療科

病床数：24 床、スタッフ数：看護師 18 名、看護補助者 2 名

夜勤体制：2 交代制勤務（2 名）

２　令和 5 年度入院（入棟）患者数：201 名、1 日平均入院患者数：16.0 名、病床利用率：66.4%、平均在院日数：31.0 日

３　令和 5 年度活動目標の取り組み

病棟看護目標

患者さんの身体や心のつらさを和らげ、患者さん・ご家族の意思を大切にして『その人らしく』穏やかな毎日を過ごすことができるよう目指します。

【顧客の視点】

（1）緩和ケア病棟では、ご家族の協力のもと感染対策を徹底し、患者さん、ご家族の大切な時間を確保するため患者さんが会いたい方 4 人を基本とし面会や付き添いを継続しています。

（2）多職種カンファレンスを週 2 回開催し、全人的に理解し苦痛の緩和に努めています。また、意思決定支援にも関わり、スタッフの倫理的感受性を高めています。

（3）ボランティア活動は、令和 5 年度、屋上庭園の整備やクリスマスツリーの飾り付け、図書の整理、活動室の整理を行うことができました。また、医師、看護師主催でのクリスマスコンサートを開催し、患者さんの笑顔を見ることができました。家族サロン「こころば」は月 2 回、ピンクリボンは月 1 回で再開しており、家族支援にも力を入れています。

（4）緩和ケア病棟の啓蒙活動としては、医師やがん専門看護師による出前講座、高校性を対象とした研修会で講師を努めました。

（5）IZAK は ZOOM 開催を継続し、1 症例を発表しました。また、リレーフォーライフには有志スタッフ数名が参加し緩和ケアにおける地域との連携・協働に努めました。

【財務の視点】

入退院支援部門との連携を図り自宅退院 45 件、訪問看護ステーションとの連携で自宅での看取りも行いました。平均在院日数は 31.0 日、病床利用率 66.4%（前年度比 5.3%増）、有料室利用率 60.7%で前年度より 24.8%増加しています。

患者さん、ご家族のニーズに沿った看護を提供しながら、効果的な病床運用を行っています。

【内部プロセスの視点】

医療安全対策として転倒転落カンファレンスやインシデント分析と改善策の共有、患者誤認を防ぐ対策に努めました。褥瘡対策にも力を入れ、安楽な体位の工夫、皮膚の保湿、ケアに努めました。また、リアルタイム記録で看護記録の効率化にも取り組み、患者個々にあった看護計画の立案、評価にも力を入れました。

【学習と成長の視点】

岩手医科大学付属病院高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程研修生１名、岩手県立大学院看護学研究科看護学専攻博士課程がん看護ＣＮＳコース１名、看護学生インターン１名を受け入れ、スタッフの緩和ケアに対する意識向上にもつながりました。

また、岩手県緩和ケア医療従事者研修会、ＥＬＮＥＣ―Ｊ研修会へ参加し症状や薬剤に関する知識の習得、緩和ケア的思考の醸成を図り患者ケアに繋げています。看護研究発表１題、レベル３到達１名。日本ポスピス緩和ケア協会、自施設評価に参加し、看護ケアの水準を高める努力をしています。

医療安全管理室

上席医療安全管理専門員　小森　仁

医療安全管理室は、質の高い安全な医療を提供する為に、院内の安全管理体制を整備する役割を担っています。医療安全管理室の構成は、医療安全管理室長１名と医療安全管理専門員１名、各部門で安全管理を担当しているセーフティマネジメント部員です。

医療安全管理室の業務は以下のとおりです。

１）医療安全に関する研修の企画立案に関すること
２）医療安全に関する各種マニュアルの作成、見直しの総括に関すること
３）医療事故に関する調査、分析、評価及び指導の総括に関すること
４）医療安全に関わる院内、院外関係機関との連絡調整に関すること
５）その他医療安全対策の推進に関すること

＜令和５年度取組み状況＞

医療安全管理室では職員の意識、知識向上を目的とした院内職員参加必須の研修会を開催しました。第１回は「臨床倫理と意思決定支援」「適切な食事介助」のテーマで、第２回は「診療用放射線の安全利用」「転倒転落を考慮した薬剤選択」について行いました。年間 1200 件ほど報告されているインシデント・アクシデントレポートの中から、発生頻度が多い転倒転落事例や、重大アクシデントになった食事介助中の窒息事例から、発生要因や危険要因と再発防止策について参加者全員で考える良い機会となりました。

11 月には日本医療機能評価機構による病院機能評価受審があり、医療安全に係る各領域の基準をクリアするため医療安全体制の充実を図りました。その一つとして６月からは診療部と連携し「死亡症例検討会」の運営を開始しました。検討会は毎週水曜日８時から前々週死亡した患者を対象に現在も実施しています。死亡の原因や背後にある問題を明らかにすることにより、医療の質の向上を図ることを目的としており、当管理室では検討会当日対象とする死亡症例の抽出等の支援を行っています。また８月には、自主的に報告するインシデントレポートとは別に、全症例について報告が必要な「手術室オカレンス報告」も運用開始しており、毎月の医療安全管理委員会で集計結果の共有を図っています。病院機能評価受審の後で改善が必要と評価された「患者誤認防止」と「口頭指示受け基準」については直ちに改善し、受審前より更に医療現場の安全対策が整備されています。

医療安全対策地域連携加算１算定に伴う相互ラウンドでは、栗原中央病院及び美希病院と連携しました。美希病院についてはコロナ禍で施設連携が十分にできずにいましたが、訪問が実現し非常に有意義な情報交換ができたと考えています。

医療局の医療安全管理専門員会重点取り組み事項では、ヒヤリハット（レベル 0）報告の重要性についての啓発（目標値：レベル 0 報告率 40%）と、医師による積極的なインシデント報告への取り組み（目標値：年間報告数の 10%）、転倒転落や患者誤認予防対策への取り組みを柱として取り組んでいます。当院では全ての結果で平均値以上の良好な結果でした。

患者支援センター

看護師長補佐　　千葉　美穂

１.部門紹介・概要

令和５年度は、部署目標を『院内外の多職種と連携し、患者・家族が地域で安心して療養生活を送れるように支援する』と掲げ活動を展開した。入院時支援専従看護師１名・入院支援看護師３名・入退院支援専従看護師１名・退院支援専任看護師３名の８名が配置されている。

２.活動実績

項目	件数	項目	件数
入院時支援加算 1.2	1559	入退院支援加算 1	4681
小児加算	510	多機関共同指導加算	10
退院時共同指導料 2	11	居宅への診療情報提供書	172
介護支援等連携指導加算	382	タスクシフト対応	906
退院前・退院後訪問指導料	21	タブレット面会	107

３.活動内容

【顧客の視点】

１）患者家族が納得できる入退院支援に向け、入退院支援看護師へ不満・やや不満の割合を把握するためにアンケートを年２回実施した。アンケートの意見を踏まえ、病室写真をラミネートし入院時支援で活用している。必要物品に関する意見の他に入院生活の環境に対する要望も出されたため、病棟へフィードバックしている。

２）看護の専門性発揮に向けて「退院支援における病棟看護師の役割」に関する研修会を開催し、病棟看護師が主体的に退院支援・退院調整ができるように動機付けを行った。研修後アンケートには、キーパーソンとの面談や加算に関する質問があったため、キーパーソンとは誰を示すのか、その定義を共通認識できるようにすること、またキーパーソンとの意向確認は対面で必要なことを周知している。病棟業務の負担を把握しながら、病棟看護師として役割発揮、育成につなげられるように取り組んでいく。

【財務の視点】

１）入退院支援における家族との面談（退院への意向確認）がコロナ５類移行に伴い、電話では不可となったことを周知した。加算要件のカンファレンスを定期開催だけでなく臨時枠で対応し、退院支援が必要な患者には漏れなく支援することで加算件数を維持した。

２）タブレットの活用も取り入れながら院内外の多職種と連携し、退院時共同指導料２の算定につなげた。

【内部プロセスの視点】

１）PFM において、今年度新たに眼瞼下垂・内反症・外反症、内痔核、胃瘻造設の予定入院患者に介入を開始し、全 14 疾患で外来医師、外来看護師業務の効率化を進めている。

２）緊急入院患者に対し入院時支援の介入を可能な範囲で行った。病棟看護師の業務負担軽減とともに、緊急入院患者は退院困難が予測されるケースが多く、より早い段階から入退院支援を開始できるように実践した。

【学習と成長の視点】

1）院内レベル研修では、レベルⅤ研修に取り組む研修生１名に対して支援を行った。

2）第 16 回岩手看護学術集会に主任看護師　藤原道代が参加し、『代理意思決定により在宅療養を選択した家族への入退院支援看護師の役割』について発表した。

医療福祉相談室

上席医療社会事業士　渡邊　純子

１．部門の紹介・概要

医療ソーシャルワーカーは倫理綱領・業務指針（厚生労働省）に基づいて支援を行う社会福祉の専門職です。主な業務内容は以下６つです。①療養中の心理的社会的問題の解決･調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動

職員数：医療社会事業士６名（保有資格：社会福祉士、精神保健福祉士）

２．令和５年度の病院事業運営方針に基づく部門の取組目標

・患者支援センター、がん相談支援センター機能の充実と強化

（主体性を尊重した相談支援、多職種連携）

・コスト意識を持った業務実践・改善の推進

（業務簡素化・効率化、超過勤務縮減、上位施設基準届出対策）

・Work Life Balance 実現・働きやすい職場環境づくり・人材育成

（5S、スキル up、計画的休暇取得）

３．令和５年度業務実績

（１）医療相談

・ケース取扱状況（単位：件）

区分	新規受理	実件数	延べ件数	一般相談
令和４年度	656	1,976	4,981	3,601
令和５年度	1,004	2,796	5,915	2,413

・援助の方法（単位：件）

区分	面接	訪問	電話	文書	カンファレンス	合計
令和４年度	8,046	9	3,869	101	305	12,330
令和５年度	10,914	28	4,556	118	170	15,786

・援助の問題（単位：件）

区分	経済		福祉	医療	環境				退院・	その他	合計
	医療費	生活費	制度	保健	心理適応	院内付添い	家庭内	職場学校	社会復帰等		
令和４年度	176	65	1,100	1,863	184	10	240	37	2,541	240	6,456
令和５年度	194	90	1,908	2,259	228	17	363	29	3,496	162	8,746

・退院支援共同カンファレンス：延べ 5,646 件

（２）患者支援センター窓口（患者サポート体制充実加算）：医療社会事業士、看護師で対応

・令和５年度患者支援相談窓口対応状況：延べ 8,421 件

・医療相談カンファレンス（毎週水曜日開催）：年 52 回

・地域医療福祉連携室運営委員会医療相談部会：年２回開催

（３）がん相談支援センター（地域がん診療連携拠点病院指定要件）

治療や療養生活に関する心配や困りごとなどについて、一緒に考え、情報を探すお手伝い

・令和５年度がん相談対応状況：延べ件数 873 件

・がん情報コーナー整備（パンフレット等配架）

・岩手県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会

（４）地域、院内活動

・岩手県立大東病院業務応援（毎週月曜）

・岩手県立南光病院認知症疾患医療センター地域連携会議

・岩手県立一関高等看護学院講師

・地域母子保健連携会議（一関市平泉町、奥州市金ケ崎町、栗原市）

・岩手産業保健支援センターと協働/両立支援出張相談窓口開設（毎月第三月曜）

・岩手県立一関第一高等学校附属中学校進路選択セミナー講師

・高校生インターンシップ、他部門実習生対応（業務紹介）

・IZAK 事例発表

・チーム医療：認知症ケア、緩和ケア、養育支援

（その他）

・病院機能評価受審

・働きやすい職場環境づくり：男性職員の育児休暇取得、５Ｓ活動・断捨離、超過勤務縮減、月イチ年次休暇取得に取り組んだ。

薬 剤 科

薬剤科長　熊谷　敏宏

１.概要

スタッフ

薬剤師 15 名、薬剤助手 4 名、時間制薬剤助手 1 名

認定薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師 1 名、緩和薬物療法認定薬剤師 1 名、感染抑制認定薬剤師 1 名

業務内容

外来・入院調剤、注射薬払い出し、がん化学療法支援業務（抗癌剤調製、レジメン監査、患者説明）、薬剤師外来、入退院支援、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報提供、薬事委員会事務局、治験事務局、製造販売後調査事務局、院内医薬品の管理、薬品事務、薬学部 5 年生の実務実習指導、看護学院講師（生化学・薬理学）チーム医療への参加（医療安全、ICT、AST、NST、緩和チーム）等

２.取り組み状況

① 薬剤管理指導業務では新型コロナウイルス感染のため 2 回の病棟ロックダウンがありましたが、年間の薬剤管理指導算定件数は 5,784 件で 1%減、退院時指導件数は 2,400 件で 1%増、でした。（表 1）

② 薬品の効率的使用について、後発薬品への切り替え促進を行い、後発薬品の使用数量割合が購入数量で 94.0%となっています。また、不要不急薬品の整理、院内にある定数薬の見直し、期限切迫薬品の情報提供等により、薬品費の縮減や薬品減耗費の抑制に取り組んでいます。

③ 薬学生長期実務実習はⅡ期（5/22～8/6）3 名、Ⅲ期（8/21～11/2）3 名受け入れ、将来おいて岩手県立病院で活躍できる人材育成を目標に指導しています。

④ 抗菌薬適正使用チーム（AST）の一員として抗菌薬適正使用およびＡＭＲ対策の推進を行っています。

⑤ 医師の業務負担軽減を目的とした疑義照会不要プロトコルを入院処方に対しても実施することにより、疑義照会件数が減少しました。

⑥ 薬剤師外来では、外来がん化学療法患者を対象とした副作用対策支援プロトコルを開始して、適切な支持薬を医師に提案し処方オーダー代行することにより、医師の負担軽減に繋がっています。

⑦ 多職種間の共同等によるチーム医療の推進において、入退院支援部門にも薬剤師を配置し、持参薬鑑別や休薬説明を行っています。（表２）

表１

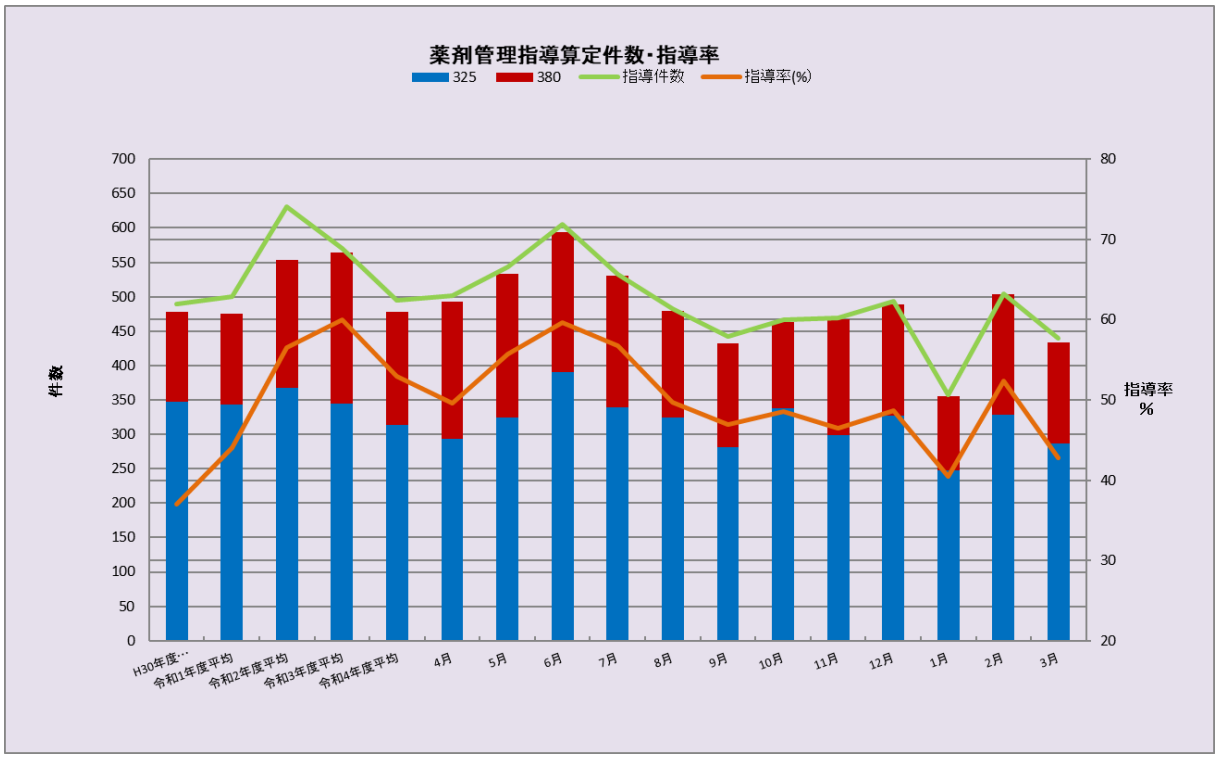
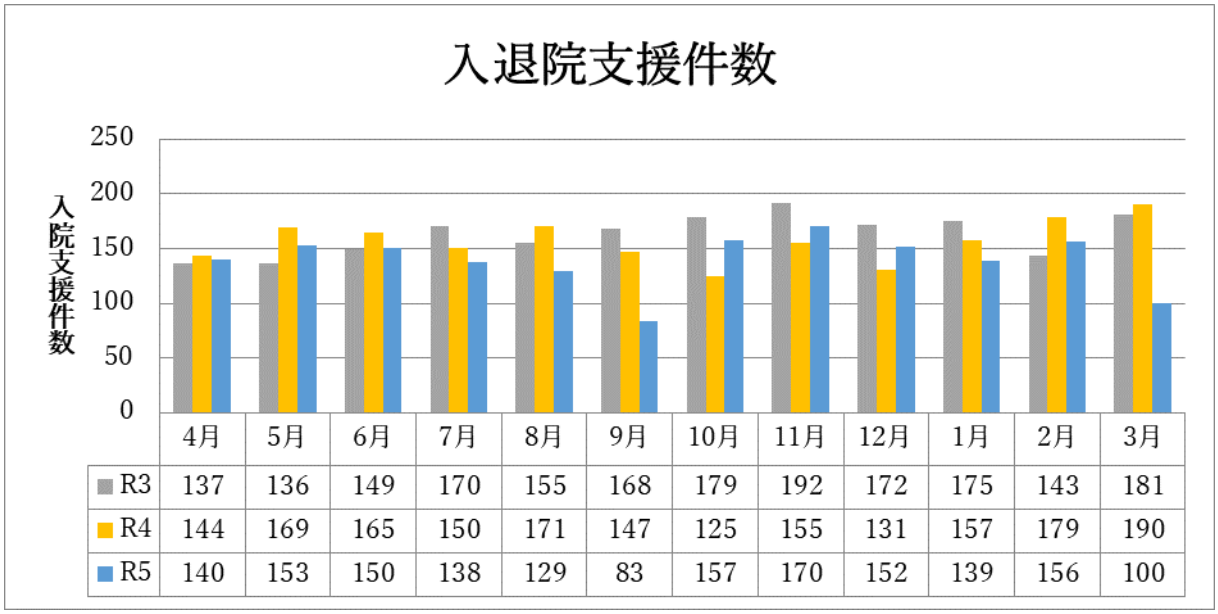


表２



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	137	136	149	170	155	168	179	192	172	175	143	181
R4	144	169	165	150	171	147	125	155	131	157	179	190
R5	140	153	150	138	129	83	157	170	152	139	156	100

２.令和５年度　薬剤業務実績

			合計	平均（月）
調剤実績	処方箋枚数	入 院 枚 数	34,746	2,896
		外 来 枚 数	8,286	690
		合 計	43,032	3,586
	調剤数	入 院 調剤数	51,211	4,268
		外 来 調剤数	23,375	1,948
		合 計	74,586	6,216
院外処方箋発行		枚 数	49,783	4,149
		（発 行 率 % ）	85.7%	
外来腫瘍化学療法診療料（ イ 700 点）		件 数	2,161	201
外来腫瘍化学療法診療料（ ロ 400 点）		件 数	902	180
連携充実加算（150 点）		件 数	1,436	120
バイオ後続品導入初期加算（150 点）		件 数	91	7
無菌製剤処理料(イ)（180 点）		件 数	2,590	215
術後疼痛管理チーム加算（100 点）		件 数	1,157	96
がん患者指導管理料ハ（200 点）		件 数	174	14
入院時支援加算（230 点）		件 数	1,531	128
薬剤管理指導	安全管理が必要な医薬品（380 点）	件 数	1,995	166
	上記以外（325 点）	件 数	3,789	316
	麻薬加算（50 点）	件 数	145	12
退院時薬剤情報管理指導料（90 点）		件 数	2,795	233
退院時薬剤情報連携加算（60 点）		件 数	29	2
病棟薬剤業務実施加算（120 点）		件 数	1,485	124
薬剤情報提供（10 点）		件 数	7,100	592
薬品鑑別件数		件 数	5,380	448
薬品再調剤件数		件 数	572	48

放射線技術科

診療放射線技師長　小岩　洋一

１．部門の紹介・概要

放射線技術科は、診療放射線技師 17 名（うち、女性６名)、時間制技師 1 名、補助員 1 名で構成、画像診断科と放射線治療科の医師や看護師と連携して、より安全で精度の高い診療画像の提供と高精度な放射線治療照射の提供を行っています。

主な保有機器は、一般撮影装置（３室)、CT 装置(２室)、MRI 装置、血管撮影装置、SPECT 装置、高エネルギー放射線治療装置、Ｘ線透視装置(３台)、乳房撮影装置、骨密度測定装置、回診用Ｘ線装置（３台）などで、放射線情報システムや医用画像保管システムなどと共に院内医療情報システムと LAN 接続したデジタルシステム運用を行っています。

診療放射線技師は、画像診断分野では、各診療科の高度なニーズに応えるべく、冠動脈 CT や大腸 CT、心臓 MRI、乳房 MRI などの先進的検査への対応、三次元処理による診療支援画像の構築や解析処理、診断参考レベルによる医療被ばく低減の推進、救急医療における STAT 報告・異常所見報告に取り組みながら、各種学会や研修会等にも積極的に参加し、技術の向上に努めています。放射線治療分野では、地域がん診療連携拠点病院として最新鋭のリニアックを導入して強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRT）の精度管理・品質管理を行いながら、専門スタッフと連携して患者さんと家族の気持ちに寄り添い安心・安全な高精度放射線治療を行っています。

２．主な出来事、取り組み

（１）両磐地区の県立病院間の業務連携を継続

相互応援による業務交流は、千厩病院とは 12 回、大東病院とは９回実施し、圏域内の一体的運営に寄与している。当院への業務支援として、千厩病院から 54 回、大東病院から 96 回派遣を受けました。欠員が継続している花泉地域診療センターには、当院から応援派遣を 164 回実施しました。

（２）中央病院との医学物理士業務の相互支援を開始

高精度放射線治療計画に係る放射線治療専門医の業務負担を軽減し、品質管理の技術向上を目的に、医学物理士の相互支援を６月から実施しました。中央病院からの派遣を 28 回受け、中央病院へは 34 回派遣しました。医学物理士の資格保持者はすべての県立病院で併せて５人と少なく、医学物理士業務の標準化や品質管理の技術共有に寄与していることから、次年度も継続して取り組むこととします。

（３）臨床実習生の受入れ

新潟医療福祉大学診療放射線学科の４年生１人が、６月５日から７月 28 日までと８月 14 日から９月 15 日まで、当科で臨床実習を行いました。患者応対・患者介助やポジショニング体験、装置操作体験（Ｘ線曝射を除く）など、モダリティ毎に指導者を決めて実習指導しました。実習成果発表で「診療放射線技師のやりがいを感じた」を言ってもらえて、私たちスタッフにも良い刺激になり、一緒に共育できたと大きな成果を感じました。

（４）新型コロナウイルス感染症の５類移行後の罹患拡大

８月から９月には、第９波となる感染拡大により、感染患者の受入れや院内クラスターが発生しました。スタッフ９人が罹患などで休職する事態となり、放射線業務の運営が危うくなる事態となったが、圏域内の業務連携・支援により乗り切ることができました。

また、翌年１月から２月にも同様の感染拡大、スタッフ６人の休職などが発生したが、業務応援や業務支援の機能が働き、診療制限することなく乗り切ることができました。

（５）病院機能評価受審の取り組み

11 月 27 日と 28 日に訪問審査を受け、第３領域の画像診断機能と放射線治療機能については、適切に発揮していると「Ａ評価」を頂けました。引き続き、医療の質向上への意識化、行動化に取り組み、部署間の業務連携についても円滑に進めていきます。

（６）血管撮影装置の入替え（SIEMENS 製 Artis Q BA Twin を導入）

両磐圏域の急性期脳卒中に対して、新たに脳血管内治療機能の体制を整備するため、第２血管撮影室の増設を令和２年から検討してきたが、既存の装置をユニバーサル型バイプレーンに更新して機能整備することとなり、１月 12 日から２月 25 日に工事を行い、２月 27 日に医療法使用許可証が交付されました。３週間の訓練期間を経て３月 11 日から通常診療が再開されました。急性期 IVR 治療の強化・発展が期待されます。

（７）病院長表彰を受賞

造影 CT 検査の再来患者において、検査当日の同意書とバイタルの確認業務を外来 AU から当科にタスクシフトしたことで、外来看護師の業務負担軽減と患者動線の短絡・患者負担軽減に繋がったことが高く評価され、３月６日に病院長から表彰されました。

３．業務実績　（令和５年４月１日から令和６年３月 31 日まで）

分野	主な項目	実績	前年度差（増減）
画像診断	一般撮影	23,148 人	1,184 人
	回診撮影	7,594 人	581 人
	乳房撮影	876 人	76 人
	CT 検査	15,379 人	468 人
	MRI 検査	4,036 人	70 人
	核医学検査	406 人	▲1 人
	血管撮影検査	232 人	▲24 人
放射線治療	延べ照射件数	4,544 件	▲1,345 件
	うち、IMRT/SRT	1,676 件	710 件
	新患数	175 人	▲30 人
	うち、IMRT/SRT	47 人	22 人
	治療計画	270 件	▲81 件
	うち、IMRT/SRT	57 件	21 件

臨床検査技術科

臨床検査技師長　後藤　明美

１．部門の紹介・概要

臨床検査技術科は検体検査、細菌検査、病理検査、生理検査から成り立っており、迅速で正確な検査結果報告、リスクマネージメントと精度管理、コスト意識を持った検査室運営を目標とし、地域医療へ貢献しております。

岩手県両磐医療圏域の基幹病院として、花泉地域診療センターや大東病院の業務応援を行い、千厩病院や大東病院の特定検査項目の受託検査に対応しております。また、併設する精神科単科の南光病院から臨床検査業務の全面委託を受けており、精神科領域の臨床検査も担っております。

専門医療に不可欠な臨床検査データを、正確かつ迅速に提供するには専門性の高い技師の育成が重要であり、各種認定技師の取得を積極的に進めております。取得した資格を活用しチーム医療に積極的に参加しております。

（１）職員数　23 名：臨床検査技師　22 名、事務補助　１名

（２）業務内容

検体検査：尿一般検査

全自動尿分析装置 US-3500

全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000

血液検査

血球計数装置/血液塗抹標本作成装置 UniCel DxH800

血液凝固自動分析装置 CP3000、CP2000

生化学・免疫検査

臨床化学自動分析装置 AU-5800、AU-680

全自動電気化学発光免疫測定装置 cobas pro

輸血検査

全自動輸血検査システム ORTHO VISION

細菌検査：一般細菌検査、抗酸菌検査、遺伝子検査

病理検査：組織診（一部院内診断）、術中迅速病理診断、病理解剖

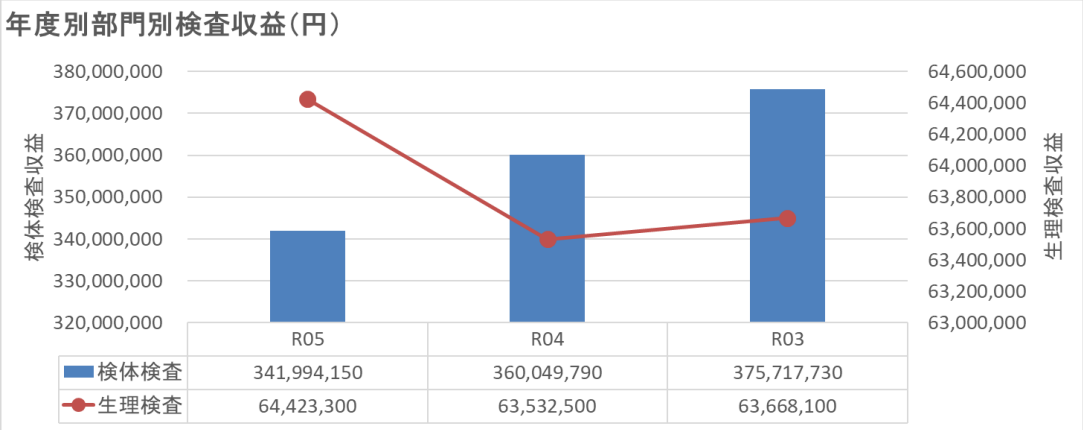
生理検査：心電図検査、ホルター心電図検査、トレッドミル検査、ABI 検査、肺機能検査、脳波検査、終夜睡眠ポリグラフィ検査、SPP 検査、超音波検査、聴力検査、嗅覚検査など

（３）外部精度管理調査参加

日本臨床衛生検査技師会、日本医師会、岩手県臨床衛生検査技師会、岩手県医師会

各メーカー主催

2．臨床検査業務状況



3．各種認定・専門資格取得者

医療局強化取得資格

日本超音波検査学会	超音波検査士	循環器領域	5
		消化器領域	3
		血管領域	2
		体表面領域	1
		泌尿器領域	1
日本輸血・細胞治療学会	認定輸血臨床検査技師		1
厚生労働省	検体採取に係る指定講習会		14
	タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会		9

推奨資格

日本臨床衛生検査技師会	認定病理検査技師	1
日本栄養治療学会	NST専門療法指導士	1
いわて糖尿病療養指導士会	いわて糖尿病療養指導士会	2

法的配置

労働安全衛生法	特定化学物質および四ｱﾙｷﾙ鉛等作業主任者	4
厚生労働省	ゆうパック包装責任者研修受講	10
日本臨床衛生検査技師会	精度管理責任者育成講習会　修了	4

病院機能

日本乳がん検診精度管理中央機構	乳房超音波評価A	2
4学会構成血管診療技師認定機構	血管診療技師	1
日本臨床衛生検査技師会	臨地実習指導者（臨地実習指導講習会修了者）	2
一般社団法人日本病院管理機構	医療安全管理者	1

希望資格

日本臨床工学技士会	臨床工学技士	1
日本心血管インターベンション治療学会	学会 ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ専門技師	1
日本不整脈心電学会	心電図検定２級	2
	認定心電検査技師	1
日本臨床検査同学院	二級臨床検査士（病理）	1
厚生労働省	一般毒物劇物取扱者	1
	有機溶剤作業主任者	2
公益社団法人日本臨床腫瘍学会	がんゲノム医療コーディネーター研修会　受講	1
仙台市防災安全協会	自衛消防業務新規講習修了	1

臨床工学技術科

主査臨床工学技士　高橋　紀美香

1. 部門の紹介・概要

臨床工学技術科は 2003 年度、医療機器の効率的な運用および安全管理を目的に開設され、医療機器の中央管理業務を主に行っております。現在は臨床工学技士 6 名体制となり医療機器管理業務に加え生命維持管理装置に関する専門的知識･技術を基盤とする様々な臨床技術提供を行っています。

当科は院内の業務だけでなく両磐圏域の病院への業務応援も行っており、大東病院へは月 1 回、花泉診療センターへは不定期になりますが年２回の業務応援を行い、医療機器保守点検や医療機器取り扱い研修会を開催し、両磐圏域の医療安全確保に努めております。また 2014 年度より千厩病院の臨床工学技士１名を磐井病院所属に集約し､磐井病院から１名が兼務業務として千厩病院で勤務することで円滑に千厩病院へ業務応援できるような体制を構築しています。

医師の働き方改革の議論に基づく臨床工学技士法の一部改正等により､臨床工学技士の業務範囲が追加され､2025 年 4 月 1 日より以前に免許を受けた者は､厚生労働大臣指定による研修（告示研修）を修得しなければならなくなりました。この研修は、オンデマンド型 e ラーニングによる約 20 時間の基礎研修と対面式による 2 日間の実技研修を受講しなければなりません。令和 5 年度末までに 5 名が修得しており、令和 6 年度は 1 名が受講の予定です。

2. 業務実績

[スタッフ]

高橋紀美香 / 後藤祐紀 / 山影哲博/　齊藤郁 / 水谷美緒　/ 柴田真衣

[勤務形態]

磐井病院　5 名 勤務：月～土　　夜間・日曜：1 名待機

千厩病院　1 名 勤務：月～金　※祝日除く

大東病院　月 1 回業務応援

南光病院　必要時

花泉診療センター　年 2 回業務応援

[認定資格]

- 3 学会合同呼吸療法認定士：高橋紀美香、齊藤郁
- 透析技術認定士：高橋紀美香、齊藤郁、水谷美緒
- 植え込み型心臓デバイス認定士：山影哲博
- 不整脈治療関連専門臨床工学技士：山影哲博
- 認定血液浄化関連臨床工学技士：水谷美緒、齊藤郁

［業務集計］

補助循環業務

業務の内容	症例数
IABP	7
ECMO	4

血液浄化業務

業務の内容	症例数
血液透析	1705
病棟血液透析	16
胸・腹水ろ過 濃縮再静注法	65
持続血液濾過透析	6

不整脈関連業務

業務の内容	症例数
ペースメーカチェック	365
ICD/CRTD チェック	45
PM 植込み・交換	53
PM 患者の MRI 撮像	10
植込みデバイス立会い	14
PM 退院時説明	35
遠隔導入件数	46
遠隔モニタリング件数	1450

呼吸治療業務

業務の内容	症例数
挿管人工呼吸器 装着件数（IPPV）	64
非挿管人工呼吸器 装着件数（NPPV）	176
人工呼吸器点検数	1210
RCT ラウンド	81

心臓カテーテル検査業務

業務の内容	症例数
心臓カテーテル検査	89
PCI	78

手術室業務

業務の内容	症例数
内視鏡手術立ち会い	729
自己血回収装置	1
耳鼻科ナビゲーション	17
マイクロ顕微鏡	16

ME 機器管理業務

業務の内容	件数
終始業点検	16865
定期点検	798
修理	150
医療機器研修会	50

リハビリテーション技術科

リハビリテーション技師長 武田　いづみ

１.概要・紹介

職員数：理学療法士 7名、作業療法士 4名、言語聴覚士 2名、 計 13名

施設基準：脳血管等リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、
がん患者リハビリテーション、摂食機能療法

２.本年度の「病院事業運営方針」等に基づく部門の取組目標

（１）早期介入とクリニカルパス推進

（２）リハビリ 365日体制の維持と土日祝日患者介入率向上

（３）リハビリ計画書の作成及び説明、開始時・退院時の説明補助、目標設定等支援・管理シート作成、廃用症候群に係わる評価票作成により医師負担軽減の推進

３.令和 5年度実績

(1)処方数

療法種別	令和5年度	令和 4年度	増減	増減率
理学療法	2,784	2,251	533	23.7%
作業療法	2,035	1,697	138	19.9%
言語聴覚療法	712	539	173	32.0%
摂食機能療法	28	44	▲16	▲36.3%
全体処方数	5,559	4,731	828	17.5%

(2)のべ処方数

療法種別	令和 5年度	令和 4年度	増減	増減率
理学療法	29,029	25,420	3,609	14.2%
作業療法	21,847	17,022	4,825	28.3%
言語聴覚療法	9,397	7,639	1,758	23.0%
摂食機能療法	865	612	253	41.3%
全体のべ処方数	61,138	50,692	10,446	20.6%

(3)件数、単位数、点数

療法種別	項目	令和５年度	令和４年度	増減	増減率
理学療法	件数	17,161	19,353	▲2,192	▲11.3%
	単位数	22,269	22,853	▲584	▲2.6%
	点数	6,118,875	6,179,732	▲60,857	▲0.9%
作業療法	件数	11,833	11,193	640	5.7%
	単位数	15,410	14,487	923	6.3%
	点数	4,404,635	4,020,111	384,524	9.5%
言語聴覚療法	件数	5,130	5,122	8	0.1%
	単位数	7,111	6,838	273	3.9%
	点数	2,100,030	2,082,000	18,030	0.8%
摂食機能療法	件数	292	318	▲26	▲8.1%
	単位数	292	318	▲26	▲8.1%
	点数	54,020	67,455	▲13,435	▲19.9%
合 計	件数	34,416	35,986	▲1,572	▲4.3%
	単位数	45082	44,496	582	1.3%
	点数	12,677,560	12,349,298	328,262	2.6%

４ おわりに

令和 ４年度と比較して、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の処方数および延べ処方数は増加したが、摂食機能療法は処方数が 36.3%減少。

また、件数・単位数・点数について理学療法は減少したが、作業療法・言語聴覚療法が件数・単位数・点数すべて増加したことにより全体的には増加、収益増収にも繋がった。

栄養管理科

栄養管理科長　名久井　美佐子

１　概要

（１）職員数 36 名

管理栄養士　：10 名

科長１名、栄養管理科次長１名　主任管理栄養士〈ＮＳＴ専任〉１名

管理栄養士４名（うち南光付き１名）、

会計年度職員（管理栄養士１名、栄養士１名、事務員１名）

調　理　師　：　27 名

主任調理師２名、調理師 14 名、

会計年度職員９名（調理師５名、調理手４名）

会計年度時間制職員２名（調理師２名）

（２）業 務 内 容　：　入院患者への食事提供及び栄養管理全般

南光病院入院患者、デイケアへの食事提供、栄養管理全般

入院・外来栄養食事指導

ＮＳＴ(専任配置)

２　栄養管理・栄養指導状況

患者給食延食数	183,634 食
特別食加算率	34.0％
特別メニュー件数	149,800 件
＊給食管理収益	125,846,331 円
ＮＳＴサポート加算件数	210 件
歯科医師連携加算	179 件
入院栄養指導算定件数	1922 件
（初回：1628 件、継続：294 件）	
外来栄養指導算定件数	972 件
（初回：461 件、継続：511 件）	

R4.5年度栄養食事指導件数、特別食加算率

	栄養食事指導件数				特別食加算率（%）	
	外来		入院			
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
4月	68	**75**	146	**189**	31.7	**35.3**
5月	69	**74**	148	**183**	29.6	**32.7**
6月	77	**95**	193	**189**	35.0	**31.0**
7月	88	**74**	166	**135**	29.3	**31.3**
8月	87	**74**	137	**109**	29.7	**29.6**
9月	66	**86**	72	**136**	31.4	**30.7**
10月	63	**81**	79	**167**	29.3	**35.1**
11月	62	**83**	114	**183**	28.8	**37.3**
12月	80	**77**	121	**191**	30.3	**37.6**
1月	80	**85**	96	**143**	28.5	**35.4**
2月	75	**81**	105	**148**	30.2	**33.8**
3月	110	**91**	137	**159**	32.5	**36.8**
累計	925	**976**	1514	**1932**	30.5	**34.0**

３　業務状況

行事食	年 24 回
いわて食財の日、いわて減塩・適塩の日	月　１回
特別メニュー	朝食：毎日、昼食：週 2 回
個人対応率	44.7%
乳児栄養相談	月　２回
ＮＳＴ回診	週　１回
褥瘡回診	週　１回
栄養管理科運営委員会	年　２回

お花見弁当

「安心・安全で美味しい食事を通して、適正な栄養管理・給食管理を実施し、チーム医療に貢献します」を目標に、NST 活動や栄養指導、病室訪問による食事対応など実践しました。平成 28 年より月 1 回岩手県の取り組みである「いわて減塩・適塩の日」を実施し、食事を通して減塩の重要性について啓発活動を継続しています。
調理師の取り組みとして、今後の安定的な給食提供のために「新調理専任講師研修会」を受講し研鑽に励みました。今後も「安全・安心でおいしい食事」の提供のために取り組んでいきます。

地域連携室

主査　　長倉　学

１．部門紹介・概要

紹介患者にかかる文書でのやり取りや、医療・介護における外部団体・関係機関との連絡調整に携わっており、その他講演会・研修会の企画や広報関係等も担当し、地域医療福祉連携室の中のいわゆる「連携事務」全般を担っています。

業務や使用システムの都合上、事務：医事経営課の室内で業務を行っており、医療福祉相談室（ＭＳＷ）や入退院支援室（看護師）とは別室となっています。

令和５年度は、正規職員２名、会計年度任用職員２名及び紹介・予約センターに従事する医事委託職員４名の人員構成です。

２．主な業務内容

（１）受診・転院などの連絡調整
（２）外部団体・機関・施設等との連携
（３）がん拠点病院・地域支援病院にかかる関係事務
（４）各種研修会・講演会等の企画調整
（５）広報・年報の作成、ホームページ・Facebook での情報発信

３．活動実績

＜地域・院外との連携＞

内容	日程	回数	参加者等
第 15 回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会	R5.9.23(土)	年 1 回	22 名
一関市医療と介護の連携連絡会			
①幹事会：出席（医師・看護師・事務）	不定期	年 3 回	―
②研修会の企画開催 （第1回磐井病院市民講演会、市との共催）	R5.12.2（土）	1 回	90 名
一関在宅緩和ケア支援ネットワーク （IZAC：アイザック）定例会議　※事務局	毎月第 3 火曜日	11 回	計 177 名
岩手緩和ケアテレカンファランス （岩手県がん診療連携協議会共催）	毎月第 3 月曜日	11 回	計 69 名
両磐地域連携パス検討会			
①脳卒中地域連携パス	不定期	年 3 回	117 名
②大腿骨頸部骨折地域連携パス	不定期	年 3 回	124 名

＜当院の取り組み＞

内容	日程	回数	参加者等
地域医療支援病院にかかる 「地域医療支援委員会」の開催（外部委員出席）	4半期毎	年 4 回	
第2回磐井病院市民講演会	R6.3.9(土)	1 回	52 名
腫瘍カンファレンス （旧：キャンサーボードミーティング）	毎月 1 回	11 回	91 名
どこでも医療講座（職員の出前講座）	不定期	16 回	251 名
がん患者・家族サロン「こころば」　※R5.12 月より再開			
①がんサロン開催	毎月第1(水)・ 第3（月）	7 回	16 名
②ピンクリボンサロン開催（乳がん）	毎月第4(水)	4 回	0 名
広報誌発行			
①連携いわい（連携医療機関・施設向け）	（№39～42）	4 号	―
②和・いわい（一般市民・来院者向け）	（№26～27）	2 号	―
令和4年度病院年報発行	R6.1 月		―

医事経営課

医事経営課長　永山　留美子

1. 部門の紹介・概要

令和 5 年度は医事経営課正規職員 8 名、会計年度任用職員 3 名、時間制会計年度任用職員 1 名の 12 名体制で業務を行いました。地域医療福祉連携室は正規職員 2 名、会計年度任用職員 2 名の 4 名体制で業務を行いました。

2. 活動内容

（1）病院経営への参画

毎月開催される経営部会でのＤＰＣ分析報告及び改善提案、病院運営連絡会議へ資料提供や診療報酬関係情報のグループウェアへの掲示など適時適切な情報発信に努めました。

また、各種指導の実施件数向上のためクリニカルパスの見直しを行ったほか、平成 30 年度に原価計算による経営分析を実施することを目的に経営支援システムを導入しており、収支改善に向けた分析に取り組んでいます。

（2）新基準届出に係る取組み状況

収入確保の取組みとして診療情報提供書・添付加算算定率向上に取り組み「総合入院体制加算３」を令和元年度に取得しました。令和２年度は新設項目である「地域医療体制確保加算」を取得したほか、「総合入院体制加算３」の施設基準維持等に取り組んでまいりましたが、令和４年度に精神科医師着任を受け、「総合入院体制加算２」、令和５年４月算定開始となりました。令和 5 年度は院内の体制を整え、看護補助体制充実加算、養育支援体制加算などを所得しました。また、令和 6 年度 6 月の診療報酬改定に向けて、上位基準取得に向けて取り組んでいます。

（3）個人未収金への対応

個人未収金管理については、24 時間会計、コンビニ収納、救急会計のクレジットカード払いの積極的活用等、医事業務委託職員と協力し発生防止及び支払いやすい環境の整備に努めております。

また、平成 29 年５月から全ての県立病院で未収金の回収促進と収納事務の効率化を図ることを目的に弁護士法人と委託契約を締結しています。

これらの取組みを行い回収に努めた結果、令和６年３月末過年度個人未収金残高は前年同月より 36 万円程度減少となっています。

(4) 査定減対策への対応

査定については、全件について医事業務委託職員と分析を行い、査定点数にかかわらず積極的に再審査請求を行っています。

査定率は医保（令和 5 年度 12 月末累計）0.34%（前年比+0.26)、国保（令和 5 年度 12 月末累計）0.09%（前年比+0.01）となっています。令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症の院内クラスター関係で行った検査が多く査定となりました。

(5) 入院費保証制度の導入

令和5年2月より病棟患者へ病衣タオル等をレンタルするＣＳセットＲを導入しております。このセットには未払いとなった入院費を立て替え払いできる入院費保証制度がサービスでついており、令和 5 年度は４件が対象となりました。

(6) 保安専門員の配置

近年、増えている暴言・暴力、威圧的な態度などトラブルを起す患者への対応のため、平成 27 年 4 月から保安専門員（警察官ＯＢ）を 1 名配置しております。患者の療養環境、職員の安全・安心の確保に貢献しています。

総 務 課

総務課長　多田　誠一

（部門の紹介・概要）

総務課は、総務係、管財係及び臨床研修センターで構成され、正規職員９人、会計年度任用職員１０人（臨床研修センター配置、運転手兼作業手及び電話交換手を含む。）の１９人体制で業務を行っています。

事務局の中で総務課は、給与・旅費の支給や施設管理・物品調達などの支出に関する事務や労務管理・職員健康管理を担当しています。

また、病院運営に関する企画・調整や、院内行事等の企画・支援にも携わっており、院内各部署と連携･協力しながら病院利用者及び職員の満足度向上につながるよう取り組みを行っています。

【総務係】

給与関係、経理関係、賃金関係、報酬関係、旅費関係、福利厚生関係等を担当

【管財係】

資産関係、材料関係、修繕関係、業務委託関係、保守関係、購入関係等を担当

【臨床研修センター】

臨床研修医関係、医局関係、医学生の見学受入等を担当

診療情報管理室

診療情報管理室次長　中村　仁

院内の診療情報の管理、取扱いに関する手続きを定め、診療情報を安全かつ適正に管理し、医療の質向上に寄与するよう利活用する部門として設置されています。

診療情報管理室の業務は「診療情報管理規定に」基づき行われています。

【主な業務内容】

- 診療記録の管理
- 診療記録の質的、量的監査
- 医療統計、疾病分類や死亡統計
- がん登録・脳卒中登録
- クリニカルパスの運用、分析等に関すること
- 同意書などの管理に関すること
- ＤＰＣ等の精度管理
- カルテ開示補助
- 臨床指標等の作成や医療の質向上に関すること
- 診療録開示補助に関すること

【スタッフ】

- 診療情報管理室長（副院長兼務）
- 診療情報管理室次長（医事経営課長兼務）
- 正規職員　２名　（うち診療情報管理士１名）
- 会計年度任用職員　４名（うち診療情報管理士３名、受講中１名）

【委員会等】

◆　院内委員会等

- 運営連絡会議
- 管理会議
- セーフティマネージメント部会
- 医療の質向上委員会
- 個人情報管理委員会
- 診療情報管理委員会
- 電子カルテ委員会
- 電子カルテシステム定例会議
- 診療運営委員会
- 経営部会
- クリニカルパス委員会
- 地域がん診療拠点病院運営委員会
- がん登録評価部会
- 広報・ホームページ委員会

◆　院外（医療局）委員会等

- 診療情報管理業務検討委員会
- クリニカルパス推進委員会
- クリニカルパス標準化作業部